

Integrated Report 2024



国立大学法人浜松医科大学
統合報告書2024



INTEGRATED REPORT 2024

HAMAMATSU UNIVERSITY SCHOOL of MEDICINE

浜松医科大学 統合報告書 2024

この報告書は、浜松医科大学の将来構想（ビジョン）に関する目標・戦略の進捗状況及びその検証結果と財務情報を組み合わせて、大学を支えていただいている皆様方へ分かりやすくお伝えできるように心がけて作成いたしました。

建学の理念

第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

Contents

浜松医科大学とは 2-16

- 2 建学の理念、目的及び使命
- 3 学長メッセージ
- 9 浜松医科大学将来ビジョン
- 11 浜松医科大学将来ビジョンの達成に向けて
- 13 第4期中期目標・中期計画

《Topics》

- 15 光医学総合研究所
- 16 産学官連携実施法人

将来ビジョン達成に向けた取組 17-28

- 17 教育
- 19 研究
- 21 医療
- 23 社会連携・地域連携
- 25 業務運営
- 27 2023年度から
2024年度の主な施設整備

内部統制の整備に関する情報等 29-30

- 29 運営組織図、内部統制
- 30 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応、
研究費の不正使用防止及び研究活動の不正
行為防止への対応

財務情報 31-36

- 31 国立大学法人の会計制度
- 32 財務諸表等の概要
- 35 医学部附属病院の財務状況

浜松医科大学基金 37-38

関係されるすべての皆様へ 39

地域の「知の拠点」として
地方創生の牽引役としての取組を
今後強化してまいります。

地域の皆様と共に 未来を創る浜松医大

本報告書は、経営状況を明らかにした財務情報と併せて本学の具体的な取組を紹介することにより、「浜松医科大学の今」を学生、卒業生、地域住民、地方自治体及び産業界等の全ての本学に関係する皆様に、より分かりやすくお伝えするため2021年より統合報告書として刊行しています。

本学の長期的な方向性を端的にお示しするため2021年度に策定した「将来ビジョン」に掲げている「教育」、「研究」、「医療」、「社会連携・地域連携」、「業務運営」のそれぞれの分野の目標に関して、これまでの取組状況や今後の展望を、担当理事・副学長のメッセージと併せてご紹介しております。皆様におかれましては是非ご一読いただき、本学の目指す未来やそれに向けた活動状況についてご理解賜れば幸いです。

さて、取組の詳細については各々項目立てしておりますので、本稿では将来ビジョンに沿った進捗状況を概説させていただきます。

浜松医科大学長
今野 弘之



Message from The President

胞から動物個体までのあらゆる階層の対象を用いて、光技術や分子イメージングの研究を推進できる体制）を活用し、様々な成果を上げてきました。

これらの研究を更に尖鋭化させ、光応用医学、領域横断的な先端医学研究を展開することを目的として、イメージングコンプレックス体制の中核組織である光先端医学教育研究センターを発展的に改組し、国際マスイメージングセンターを統合する形で2024年4月に光医学総合研究所を設立しました。本研究所は、分子や細胞から個体までの尖端的イメージング技術の確立とそれらを用いた未知の生命現象の解明、精神神経疾患をはじめとする未解決で有効な診断法、治療法が望まれる疾患の病態の解明と低侵襲な診断法、効果的な治療法の開発を目指しております。

また、2023年度には地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業（文部科学省）に提案大学及び連携大学としてそれぞれ採択されました。本事業の目的は、研究力を活かして国内外の社会課題解決や新産業創出などのイノベーション創出に貢献する施設を整備することとされております。

提案大学としての事業については後述しますが、藤田医科大学の連携大学として申請した「精神・神経病態研究拠点の形成」事業においては、新たに「光分子解析施設」の整備を行っており、マスイメージングや3Dイメージング技術等の共用化による神経機能分子解析研究基盤を創生し、脳神経病態研究の推進と広範囲な共同研究の活性化を促し、創薬等の社会実装を促進することを目的としています。

これらの取組に対する教育成果を確認するために、英語教育については、大学が費用を負担し、学生にTOEICを受験してもらい、成果の確認を行っています。また、教育課程全般については、学生や外部の有識者にも参加いただき、カリキュラムの成果や問題点などについて議論いただくとともに、2024年度は、2019年度の医学科に引き続き、看護学科も分野別評価を受審し、外部機関の評価を受ける予定です。今後も良き医療人の育成に向けて継続的な改善を続けてまいります。

大学院教育においても、医学専攻では留学生を含め常に定員以上の応募があり、優れた大学院生の確保が可能となっています。2018年度に我が国で初めて開設した静岡大学との共同専攻である光医工学共同専攻（博士後期課程）では、引き続き光・電子工学と光医学双方に精通している高度専門人材を育成します。

また、2022年度から看護学専攻（博士後期課程）を開設しています。高い倫理観と国際的視野を備え、異分野と融合して看護学分野での新たな価値を創出する教育・研究によって社会に貢献できる人材を養成します。さらに、看護学専攻（博士前期課程）では老年看護（2021年度）に引き続き精神看護（2022年度）の高度実践看護コースも開設しており、特定の分野で必要とされる資質・能力を意識し高度化することで、その分野をリードし中心となって活躍できる実践的な能力を備えた高度専門人材を養成していきます。

研究

先端医学研究の推進

研究においては、本学の強みである光医学研究に関する最新の研究機器と高度な技術スタッフや蓄積したノウハウからなるイメージングコンプレックス体制（細



教育

入試改革と教学改革

教育においては、これまで入試改革とともに教学改革を進めてきました。入試においては、アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）に基づき学力の3要素を多面的・総合的に評価するために入学者選抜方法を改革し、面接におけるプレゼンテーションの導入や個別試験重視の配点への変更を実施しました。これは「記憶力」から「論理的思考力、判断力、表現力」へという国の方向性を先取りしたものです。

学部教育において、医学科についてはカリキュラムを抜本的に見直し、2021年度入学生から適用しています。このカリキュラム改革を一言で言えば、EBM教育、倫理学、行動科学、実験実習や英語学習等を6年一貫のらせん型に組み込み、学修成果基盤型教育の質の向上を目指すものです。

看護学科についても、地域社会の看護の質向上や国際的視野を持つ看護職者の育成を目指し、看護学教育モデル・コア・カリキュラムに示される内容を踏まえてカリキュラムの見直しを図り、2022年度の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正を機に新たなカリキュラムをスタートさせています。

確かな科学的知識や医療技術の修得に加え、患者さんに寄り添い共感できる医療職となって欲しいと願いカリキュラムを策定しました。中でも倫理学や行動科学の素養は重要であることから見直しを図りました。現在

もカリキュラム上の工夫を続けています。

また、国際性を涵養し、多様性を理解するため、英語教育にも注力しています。e-learningの導入や新規授業の開講などプログラムの充実を図っています。海外に留学する学生が大幅に増加するなど、学生の意欲も感じています。

加えて、大量のデータが溢れる現在社会において、必要な情報を収集・分析して解決策を見出すことができる基礎的なリテラシーを身に付けるための取組を開始しており、浜松医科大学数理データサイエンスプログラムは2023年度に文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラムに認定されています。

新たな視点からの取組

さらに、2022年度に設置した次世代創造医工情報教育センターにおいて、データサイエンス教育やAI技術を基盤とし、社会課題の解決に挑戦できるデザイン思考やアントレプレナーシップ（起業家精神）教育を行うという全国の医学部でも特徴的な取組を実施しています。地域のスタートアップ企業の代表や起業経験を持つ医師を招いた授業や、起業、製品開発を視野に入れたゼミの開催等、チャレンジマインドにあふれ、新しい視点で課題解決に積極的に取り組む医療人の育成に向けて活動しており、学生のアイデアから生まれた知的財産の登録や、学生による労働災害防止アプリの開発など、すでに成果も出始めています。



▶ 医療

先端医療センターの稼働

医療においては附属病院に先端医療センターを新設し、最新の放射線治療や内視鏡診断、新生児特定集中治療室(NICU)や新たな手術室を整備するなど、業務の幅を拡大してきました。これに加え、消化器、循環器などの臓器別の病棟再編及び臓器別センターの設置、高度治療室(HCU)の新設、病床管理システムの導入等を行い、患者さんの利便性や診療効率及び病床運用効率の向上並びに診療協力体制の強化を図っています。

地域医療連携推進法人

また、昨今の新興感染症の蔓延や大規模地震などの災害時にもレジリエント(困難に直面した際に適応できるしなやかな強さ)な地域医療体制を構築することが重要であり、これに寄与する取組として、本学は浜松医療センターと共に「地域医療連携推進法人」を2025年度に立ち上げる予定です。災害時に相互バックアップ体制が構築されるのみならず、計1,200床規模のグループを作ること、地域医療の集約化・機能分化が推進され、希少疾患も含め様々な患者さんに専門的な治療ができるようになり、また、創薬などに向けた臨床研究も促進される見込みです。加えて、双方が人的資源を相互有効活用するほか、医薬品の共同調達などでコスト削減も期待できます。

医療のデジタルトランスフォーメーションと働き方改革

集約化・機能分化のネットワーク構築には医療DX(医療分野において、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること)が不可欠であり、特に医療情報の共有が重要です。既に浜松

医療センターとは電子カルテ相互利用の運用を開始しており、その他にも県内8医療機関に外部カルテ利用端末を配備し、院外から電子カルテを閲覧できる体制を整備しています。

なお、メディカルDXの進展は患者さんへの安全・安心でより質の高い医療提供を実現するばかりでなく、医療現場の負担軽減にもつながると考えており、各種センサーを設置したベッドサイドケア情報統合システムで患者さんの状態をモニターし、看護師等の負担を軽減する取組も進んでいます。さらに、働き方改革に資する取組としては、臓器別の病床再編に伴う当直体制の大幅な見直しや、医師の負担となっている症例登録業務を一元的に担うDataOpsセンターの新設、看護師をはじめとした多様なメディカルスタッフの質的向上によるタスクシフト(従来、ある職種が担っていた業務を他職種に移管すること)に取り組むなど、誰もが心身の健康を保ちながら、いきいきと医療に従事できる職場環境を目指し、医療従事者の働き方改革を推進しています。

地域医療を担う人材の育成

さらに、卒後教育にも注力しており、初期研修においては、研修環境やプログラムの充実などにより、2023年のマッチング率※は過去最高の94.3%となりました。専攻医研修においては静岡県内で唯一、専門基本領域19全てのプログラムを提供し、県内への専攻医定着に寄与しています。学部教育においても静岡県の医師不足地域での総合診療・家庭医療実習を引き続き実施するなど、学部教育から卒後教育まで一貫して地域医療に貢献できる人材の育成に努めています。

また、看護キャリア開発センターでは、チーム医療の促進のために医療安全の下、特定行為を行う看護師の育成や、管理者として優れた資質を持ち、創造的に組織を発展させる能力を有する認定看護管理者の育成

を行っています。このような取組により、医療・看護の質の向上につながると期待しています。

※医学部を卒業し、医師になった者の初期研修先を決めることをマッチングといい、マッチング率が高いほど、募集定員に比べ研修希望者が多い病院と言える

▶ 社会連携・地域連携

地域の医工連携拠点として

産学連携においては、地域の大学、産業界及び自治体等で構成され、本学が中心となって運営している「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点(通称:はままつ医工連携拠点)」が主体となって、地域の医工連携ワンストップ窓口(そこへ来れば医工連携の情報共有ができ産学官金の連携による研究開発が推進できる窓口)として活動することで、地域企業とのネットワークの構築を行ってきたところですが、大学の垣根を超えた新しい産学官連携拠点を形成するため、2024年4月に本学の産学官連携部門を外部法人化し、産学官連携実施法人「はままつ共創リエゾン奏」を立ち上げました。関連各機関の専門家と協力しながら、企画、研究開発、製品化までの一連の流れを法人自らが担うことにより、スピーディでかつ目標達成を重視した産学連携活動を行うことが可能となります。

また、先述の地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究施設整備事業において本学が提案機関として採択された「ホスピタル・ラボ」は、病院の手術室、診察室、病室を模したオープンラボで、新規医療技術の実証、新技術のテストの場であり、これまでにない新しい取組です。ホスピタル・ラボを通じて、研究開発と事業化をつなぐ場を創出し、産学官連携実施法人と連携して地域と一体となったスタートアップ企業育成、企業誘致等を行うことにより、ものづくり企業が多数集積する浜松地域を健康医療産業の一大都市にしていこうことを目指します。

さらに、2023年度に設置した「地域創成防災支援人

材教育センター」は地域の社会課題、特に感染症を含めた救急・災害医療等に対してイノベーションを起こし、浜松市等の地元自治体及び地域企業と共創しながら、防災支援のための人材教育、医療目利き人材養成や機器開発、システム構築を行い、課題解決を推進することを目的として活動しています。

▶ 業務運営

健全な財務状況の維持

財政状態に関して申し述べますと、国立大学法人に対する国からの運営費交付金が減少傾向にあるため、これを補い安定的に法人運営を行うために、学内研究費支援等による外部研究資金の獲得促進、寄附講座の積極的な受入れ及びクラウドファンディングの実施等の外部資金獲得に資する取組を行ってきました。また附属病院においては、病院収益及び手術件数は順調に増加しており、昨今の電気料の高騰に対しても、経費削減を恒常的に意識し、医療材料の見直し等を継続的に実施したことなどにより、順調な運営を行っており、法人全体としても健全な財務状況を維持しています。

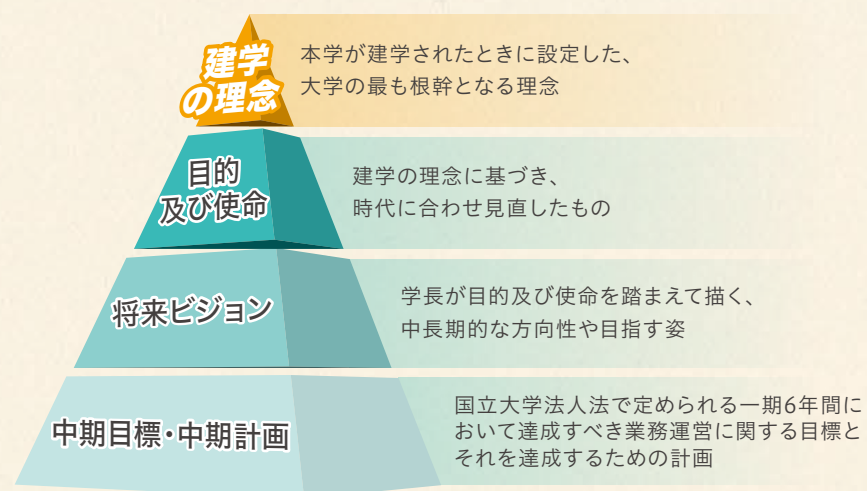
これらの取組を継続しながら、新たな産学官金連携推進体制の構築による民間企業等からの資金の受入れ促進や、投資信託による資産運用等の拡大に向けた取組を通じて、財源の多元化と安定的な財務運営に努めます。

本学の教職員一丸となり、地域の「知の拠点」として、地域の皆様や地方自治体、産業界、他の教育研究機関と連携しながら、地方創生の牽引役としての取組を今後も強化し、開学50周年を契機に新たな飛躍を遂げるべく邁進してまいります。今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

浜松医科大学 将来ビジョン

本学は、建学の理念並びに目的及び使命を掲げ、その実現に向け建学以来、努力を続けてまいりました。今後も教育、研究、医療及び社会連携・地域連携活動の一層の充実により、地域社会や国内外の諸課題の解決に取り組むため、教学及び業務運営を包含した将来ビジョンを策定いたしました。この将来ビジョンは、学外関係者の皆様には、本学の長期的な方向性や目指すべき姿を示すものであり、学内の教職員には、中期目標・中期計画をはじめとした具体的な施策の拠り所になるものであり、多様なステークホルダーが共通認識を持つことによりその実現に向け大きな推進力となるものです。

今後も、関係者の皆様に、将来ビジョンの達成に向けてロードマップ等を示し、具体的な取組の進捗状況などをご報告いたします。



web

中期目標・中期計画は、ホームページで公表しています。
<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/mid-term-goal/index.html>



教育

時代が激変する中で、医師、看護師に求められる知識、技術は増すばかりですが、本学は引き続き高度な能力を備えた専門性の高い医師、看護師を育成します。さらに、患者さんの価値観や特性など多様性を理解し、他職種と連携しながら患者さんの意思を尊重した最善の医療を提供できる医療人の育成に努めます。加えて、研究熱心で未知の生命現象の解明や疾患の克服等につながる重要な研究成果を世界に発信できる独創的な医学・看護学研究者を養成するとともに、既存の学術領域を超え、新しい医療技術を社会実装するなど、社会課題に挑戦するアントレプレナーシップ(起業家精神)を持った人材の育成を目標として掲げています。

- 多様性への理解と国際感覚に裏打ちされた豊かな人間性を持ち、患者第一主義のチーム医療を実践できる医療人の育成
- 独創的な先端研究に取り組み、成果を世界に発信できる研究者の育成
- 高度な知識と技術を有し、優れた実践能力を持つ専門人材の養成
- 社会課題に挑戦し、新たな価値を生み出すアントレプレナーシップの涵養

研究

本学の強みである光の医学応用に関する最新の研究機器と高度な技術スタッフや蓄積したノウハウからなる研究を推進できる体制(イメージングコンプレックス体制)を活用し、光医学研究をさらに推進するとともに、こころの病や遺伝性疾患など、未解明の課題に対して基礎研究者、臨床研究者が一体となって取り組み、治療法の開発につなげます。また、工学・情報学等の他分野の知見を取り入れながら特色ある分野横断的研究を推進し、同時に新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析により、心身ともに健康な社会の創成を目指します。

- イメージングコンプレックスを活用した先端的な光医学研究の進展
- こころの病や遺伝性疾患等の基礎・臨床が一体となった研究の推進と治療法の開発
- 工学・情報学等との分野横断的研究の推進によるイノベーションの創出
- 新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析によるウェルネスの創成

医療

メディカルDX(医療分野において、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること)により、より安全で高度な医療を提供し、医療の質や患者さんの利便性を向上させるとともに、看護師をはじめ、多様なメディカルスタッフの質的向上によるタスクシフト(従来、ある職種が担っていた業務を他職種に移管すること)に取り組み、医療従事者にとってもフレンドリーな環境を提供するスマートホスピタルの実現を目指します。また、専門医や特定看護師など地域医療の中核を担う高度で専門的な能力を有した医療人の育成を強化します。さらに、医療情報の共有化などをはじめ近隣医療機関等との連携により集約化・機能分化を推進しレジリエント(困難に直面した際に適応できるしなやかな強さ)な医療ネットワークの構築に取り組みます。

- メディカルDXにより効率的かつ安全で高度な医療を提供するスマートホスピタルの実現
- 地域医療の中核を担う高度な能力を有した医療人の育成
- メディカルスタッフによるタスクシフトをはじめとする医療従事者の新たな働き方の実践
- 集約化・機能分化によるレジリエントな医療ネットワークの構築

社会連携 地域連携

これまで培ってきた、民間企業、地方公共団体、教育研究機関、金融機関等との連携を強化し、革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成等により医療を基盤とした産業創出を目指します。さらに、地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携し、インクルーシブ(社会的に包容力のある)で持続可能な「ウェルネス(より良く生きるための生活を目指す)社会」の創出に貢献します。

- 産学官金連携推進体制の強化による革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成
- 地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携したインクルーシブで持続可能な「ウェルネス社会」の共創

業務運営

この統合報告書等を通じて関係者の皆様との対話により本学に期待される機能や役割を理解し、外部有識者の助言をいただきながら、調査研究を充実させ、客観的な指標に基づく大学運営を行います。また、国からの運営費交付金とともに多様な財源の確保を図り、資産運用等の拡大により安定的な財務運営に努めます。さらに、施設・設備整備を通じて、地域医療を支える附属病院の機能強化や、高度な情報技術を基盤とし、キャンパス全体が有機的に連携し、学内のみならず、地方公共団体、産業界、他の教育研究機関等との共創の拠点(イノベーション・コモンズ)となるよう取り組みます。

- 外部有識者やその他ステークホルダーとの対話とエビデンスに基づく戦略的大学経営
- 財源の多元化や資産運用等の拡大による安定的な財務運営
- イノベーション・コモンズの実現、病院機能の強化とデジタル・キャンパスの推進

浜松医科大学 将来ビジョンの達成に向けて

リソースの活用による目標達成への流れ

本学は、将来ビジョンを掲げ、その達成に向けて様々な活動を実施しています。

このページでは、2023年度（一部2024年度）に本学が実施した主な活動を中心に5つのビジョン毎に区分し、本学が保有するリソース（人的資本や資金など）が、各ビジョンの目標達成に向けて、どのようなアウトプット（成果）及びアウトカム（成果によってもたらされる効果）を生み出しているか、その流れを表しています。

浜松医科大学のリソース

職員数

2,693名 ※1

職員数の内訳

- 常勤職員
 - ・教員……………406名
 - ・看護師等医療職員……………1,050名
 - ・事務、技術職員等……………209名
- 非常勤職員……………1,028名

※1) 2023年5月1日現在

固定資産

374億円 ※2

固定資産の内訳

- 土地……………64億円
- 建物・構築物……………232億円
- 設備……………58億円
- 図書……………2億円
- その他……………18億円

※2) 2023年3月31日現在

投資額

396億円 ※3

投資額の内訳

- 教育研究経費……………13億円
- 診療経費……………192億円
- 外部資金……………24億円
- 人件費……………136億円
- 施設整備費……………13億円
- 一般管理費……………5億円
- その他……………13億円

※3) 2023年度決算より

医学科・看護学科新カリキュラムの実施
次世代創造医工情報教育センターの運営
施設改修等による教育環境の整備 P18、P27
国際交流の充実 P18

- DXを取り入れた教育の実施
- アントレプレナーシップ教育の講義拡充
- 海外留学生数57名（前年度比 46名増（予定））
- 国際交流協定 3校締結

- 患者第一主義のチーム医療を実践できる医療人の育成
- 社会課題に挑戦できる起業家精神を持った人材の育成
- 高度な知識と技術を有し、優れた実践能力を持つ専門人材の養成

教育

研究戦略室と5つのWGの活動
研究支援制度の拡充
光医学総合研究所の設置 P15
新たな研究施設の設置 P19-P20
先端機器の導入と共用化の推進 P20

- 原著論文数 671本
- 科学研究費助成事業受入額 約4.8億円（前年度比 約6%増）
- 民間等からの外部資金等の受入額 約4.9億円（前年度比 約25%増）

- 先端的な医学研究の推進
- 新しい治療法や医療技術につながる研究の推進
- 研究成果の社会への実装・還元

研究

安全で高度な医療の推進 P22
先端医療センターの運営
臨床教育の充実 P22
新たな医療ネットワークの構築

- 手術件数 9,081件（前年度比 約11%増）
- 初期研修医マッチング率 94.3%（本学過去最高）
- 看護師特定行為研修修了者数 15名（うち院外5名）

- 高度で低侵襲な医療の推進
- 地域医療を担う高度な能力を有した医療人の養成
- タスクシフトなどの効率的な働き方による医療の質の向上

医療

産学官金連携の推進 P16、P23-24
地域創成防災支援人材教育センターの設置 P23

- 実用化件数 4件
- 医療現場との情報交換会 39社出席
- 地域連携事業（社会貢献事業） 15事業へ支援

- 産学官金連携による研究成果の社会還元
- 医療現場のニーズからの製品化への期待
- 本学の持つ知見や研究成果による社会貢献

社会連携
地域連携

ステークホルダーとの対話の実施 P26
統合報告書の発行
財源の多元化と資産運用等の拡大 P25-P26
施設整備・デジタルキャンパスの推進 P27-P28

- クラウドファンディングの達成 4,749万円（達成率100%）
- 定期預金、債券による資産運用収益 2,299万円（前年度比 約66%増）

- ステークホルダーとの対話による本学に期待される機能や役割の理解
- 安定的な財務運営による教育研究機能の強化

業務運営

インプット

主な活動

主なアウトプット

主なアウトカム

5つのビジョン

第4期中期目標・中期計画

国立大学法人法により、文部科学大臣から、国立大学法人等が達成すべき業務運営に関する目標（中期目標）が示され、この目標を達成するため6年間（2022～2027年度）の中期計画を定め、文部科学省から認可を受けています。2023年度は、この6年間の2年目に当たりますが、中期計画の達成に向け、順調に進んでおります。今後も関係者の皆様の期待に応えるべく、取り組んでまいります。

本学中期計画（概要）

I 教育研究の質の向上に関する事項

1 社会との共創

- ・デザイン思考（問題解決においてデザインの手法や過程を活用する考え方）やアントレプレナーシップ（起業家精神）の素養を持った人材の養成
- ・新たな医療産業創出によりインクルーシブ（社会的に包容力のある）で持続可能なウェルネス（より良く生きるための生活を目指す）社会の創生に貢献
- ・新興感染症や自然災害などに対してレジリエント（困難に直面した際に適応できるしなやかな強さ）な地域医療体制の構築

2 教育

- ・学修成果基盤型教育の質の向上を目的として改訂した新しい教育課程の実施
- ・他大学や企業等との連携による数理データサイエンスやAI教育等の充実
- ・アクティブラーニング（能動的学習）形式授業の発展
- ・光工学共同専攻の発展及び看護学専攻（博士後期課程）の新設
- ・高度実践看護コースの充実
- ・国際的視野に立って活動できる人材の育成
- ・海外からの優秀な留学生の獲得

3 研究

- ・基盤経費の積極的措置や研究機器の共用化などによる研究基盤の強化
- ・光医学研究の卓越性を更に伸長させた新たな研究拠点の創設やイメージングコンプレックス体制（細胞から動物個体までのあらゆる階層の対象を用いて、光技術や分子イメージングの研究を推進できる体制）の高度化
- ・光医学やナノスツツ技術を応用した分野横断的アプローチによる課題解決並びに新規診断治療法及び治療薬開発等の実用化の推進

4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

- ・地域の産学官連携拠点としての中核機能の更なる強化
- ・附属病院における情報技術の活用などによる安全管理体制の強化
- ・高度医療・低侵襲医療の推進
- ・初期研修・専門医研修プログラムの充実
- ・メディカルDX（医療分野において、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること）の推進や近隣の医療機関等との緊密な連携による効率的な地域医療体制の構築

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- ・外部有識者の知見を生かした大学経営とガバナンス体制の強化
- ・キャンパス環境の向上を図る施設整備

III 財務内容の改善に関する事項

- ・民間企業等からの資金の受入れ促進をはじめとする財源の多元化と安定的な財務運営並びに戦略的な学内予算配分の推進

IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

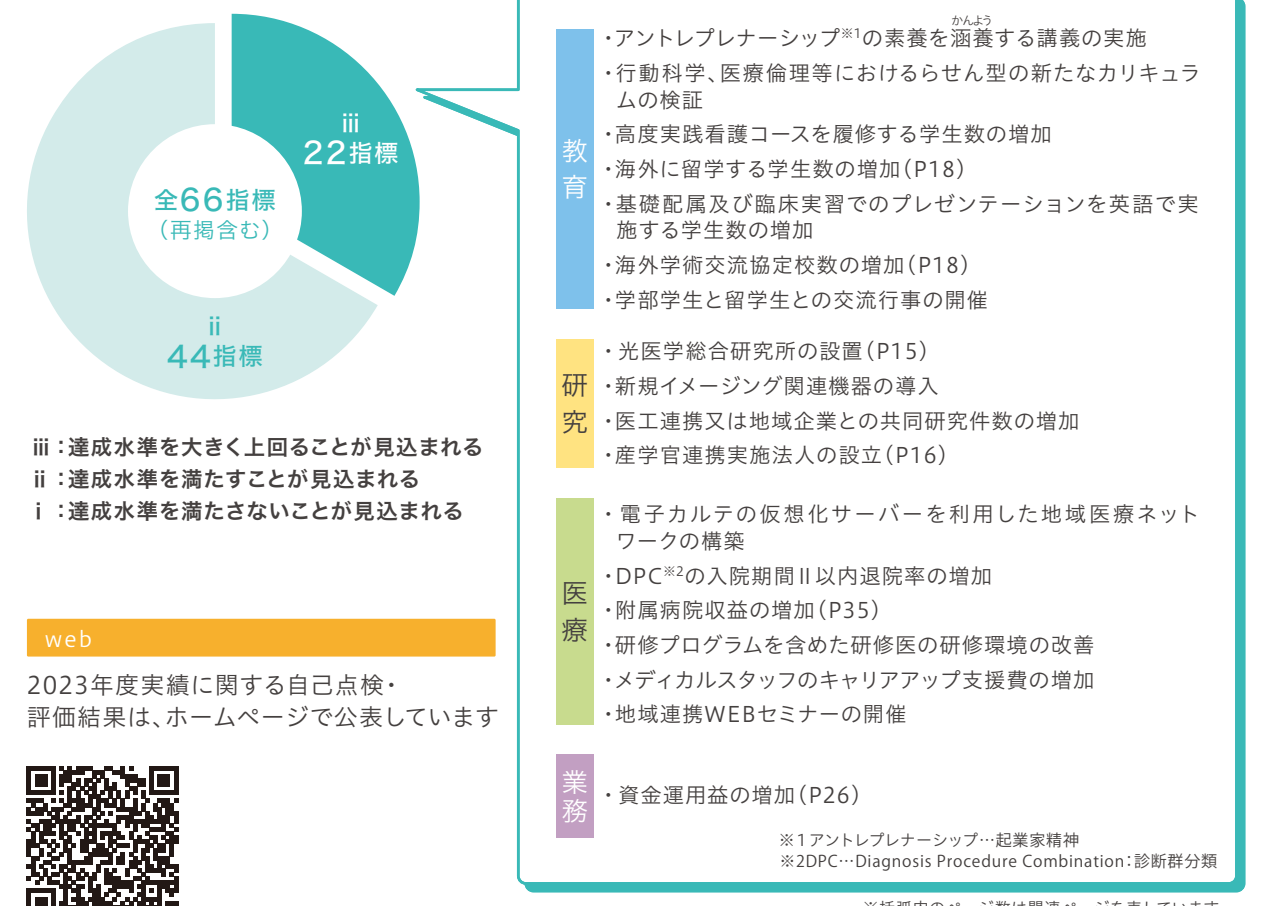
- ・客観的データに基づいた自己点検評価
- ・統合的な年次報告書等による情報発信や多様なステークホルダーとの対話の実施

V その他業務運営に関する重要事項

- ・業務の見直しとデジタル技術の活用によるデジタル・キャンパスの推進

2023年度実績に関する自己点検・評価結果について

国立大学法人法の改正により文部科学省による毎年度の業務実績に係る評価が廃止された代わりに、各大学における自己点検評価の徹底と公表が求められています。本学が中期計画の各評価指標（66指標（再掲含む））の進捗状況について自己点検・評価を行った結果は以下のとおりです。



<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/eval-info/daigakuhyouka.html>



光医学総合研究所メンバー 2024年4月1日キックオフミーティングにて



左) 今野弘之学長 右) 山本清二代表取締役 2024年4月24日記者会見にて

Topics #1

光医学総合研究所 次世代光医学研究成果創出拠点へ

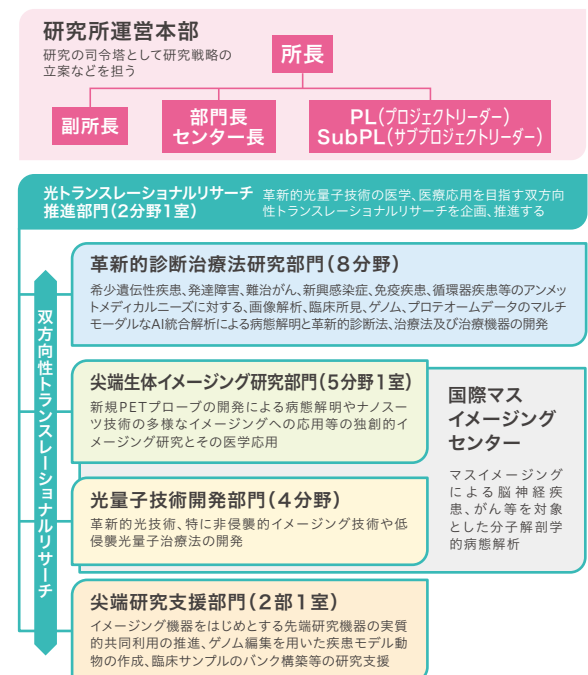
2024年4月1日、開学50周年を記念して「光医学総合研究所(Institute of Photonics Medicine)」を設置しました。従来の光先端医学教育研究センターを発展的に改組し、国際マスメイジングセンターを統合して本学の光量子医学研究のジャンプアップを図るものです。

▶ 光医学総合研究所が目指すもの

1. 非侵襲イメージングなどの先端光量子技術の開発
2. 先端光量子技術を用いたアンメットメディカルニーズ(未解決で有効な診断法、治療法が望まれる疾患)の病態解明
3. 基礎医学、臨床医学と光医学の共同研究による双方向性トランスレーショナルリサーチ(橋渡し研究)の実践を介した新規診断法、治療法の開発と実用化
4. 研究所の総力をあげた「研究所プロジェクト」の実行
5. 先端研究機器の整備と学内外の研究支援(解析、モデル動物作成等)による共用化の促進

研究所 組織図

本研究は運営本部と5つの部門からなります。各部門の役割を果たし、研究所が目指すものを実現していきます。さらには、本学の強みである「光医学」「光工医学」の研究のみならず全学の研究を推進させ、大学の機能強化及び社会貢献へ寄与していきます。

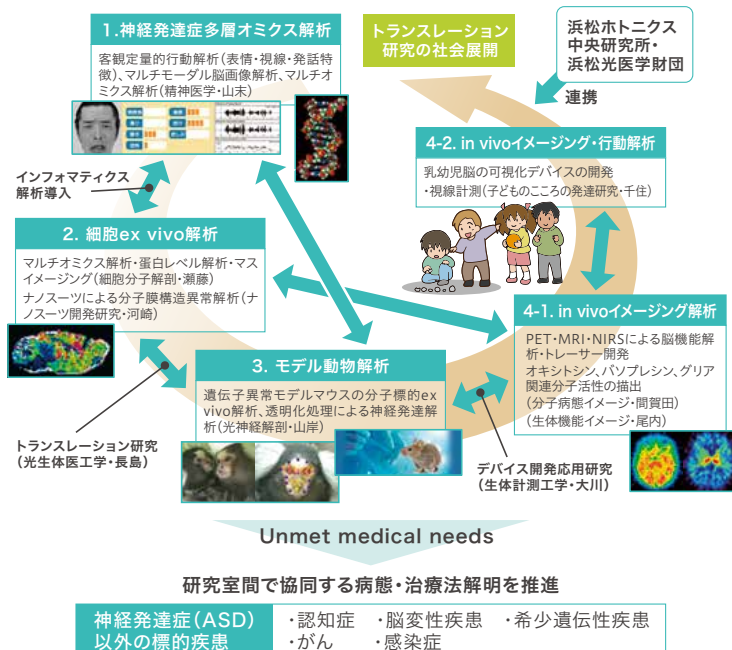


研究所プロジェクト

本研究では全ての研究室がそれぞれの専門分野を活かす形で携わる「先端医学と光量子技術の統合による神経発達症の病態解明と革新的診断治療法の創出」を研究所プロジェクトとして始動しています。

光医学総合研究所・医学部の光医学統合研究体制

神経発達症の病態メカニズム解明と治療戦略

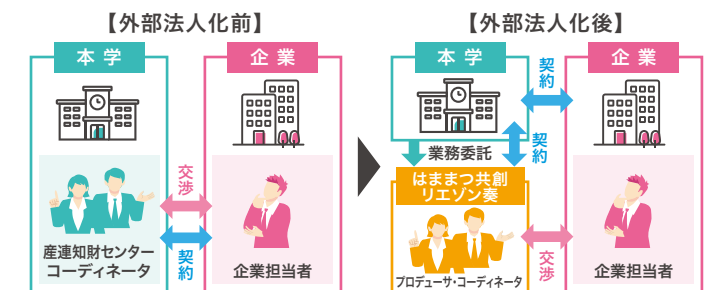


Topics #2

産学官連携実施法人 産学官金連携を推進する共創の場の構築

「株式会社はままつ共創リエゾン奏(かなで)」(以下、奏)を2024年4月1日付で設立しました。奏は、本学がほぼ100%出資する大学発スタートアップで、本学の医療現場のニーズ及び研究シーズを中心に、国内外の大学、企業、医療機関等との共同研究・開発をプロデュースし、スピード感をもって一気通貫のマネジメントを行うことにより、研究を推進してビジネスを創出します。また、地域が直面する産業構造の変化に対応し、ウェルネス、ヘルスケアを中心とする新産業の創出に貢献します。

意思決定に時間を要し、組織全体の人事・給与体系が適用されて産学官連携に特化した処遇や雇用が困難であるなど、大学の構造的課題のために積極的に活発な産学官連携活動は学内組織では難しい面もありました。学内の産学官連携部門を廃止し、新たに奏を設立することによって、これらの問題を解決し、より積極的に産学官連携活動を推進します。大型共同研究の実施、オープンメディカルイノベーションの推進、スタートアップ拠点支援などの各種支援事業を行い、産学官連携の発展へつなげていきます。



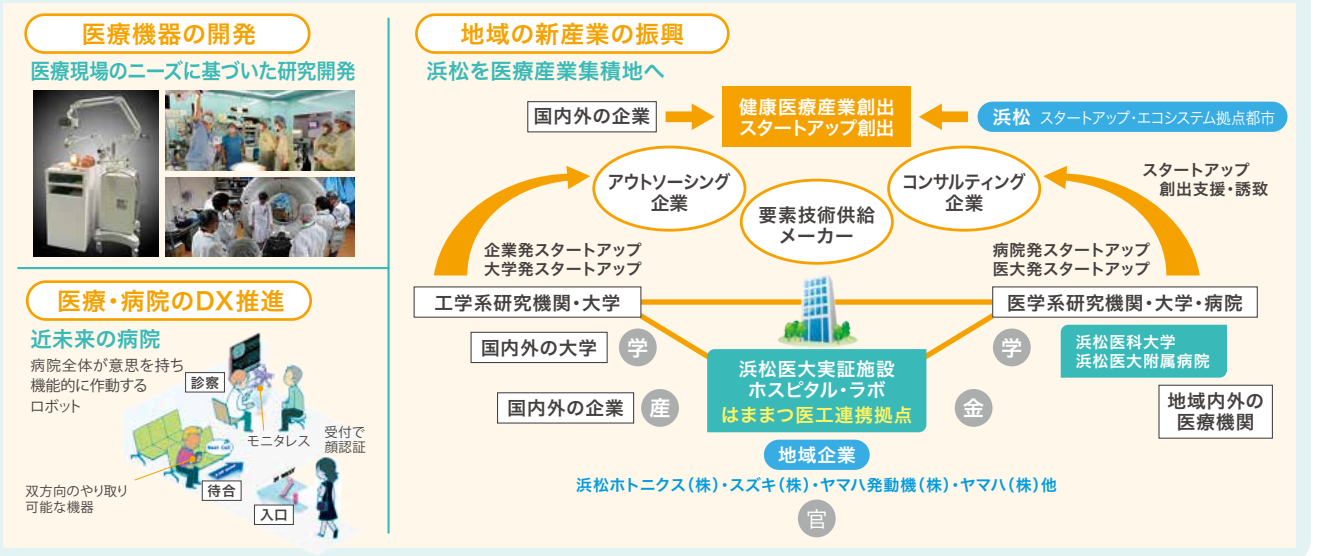
▶ 奏の強み

1. 医療現場のニーズに基づいた医療機器等の研究開発ができる
2. 本学の強みである光医学、精神医学等の研究シーズを多数有している
3. 医療機器の開発プロセスを知っている
4. 連携する医師・看護師が多数いる
5. 連携する医療機関が多数ある
6. 医学教育現場と直結している

また、浜松地域はものづくり産業の集積地であることから、医療現場のニーズ、研究シーズ及び浜松の地域性、それぞれの強みを活かし、医療現場のニーズに応じた製品化、商品化、社会実装を強力に進めることが可能です。

▶ 奏が目指すもの

奏の強みを活かし、モノづくりの街、創業者の街、光・電子技術の街、浜松に健康・医療産業の集積を目指します。



次世代で輝く医療人の養成



副学長(教育担当)
梅村 和夫

第1回の『医・工・情報連携ワークショップ』に引き続き、第2回のワークショップが2024年8月22日に開催されました。今回も静岡大学の工学部及び情報学部、そして本学の医学科及び看護学科の学生が集まり、防災をテーマに討論を行い、課題とその解決策を発表しました。学生たちはそれぞれの専門知識を活かして連携を深め、新たなアイデアを生み出すことができ、非常に有意義な時間を過ごしました。

2023年度から、医師法の改正により、4年生の後半から始まる臨床実習において医行為が法的に認められるようになり、より実践的な診療参加型の臨床実習が可能となりました。この改正に伴い、学生の質を確保するために共用試験(CBTとOSCE)が公的に実施され、厳格な体制で試験が行われています。本学でも、この共用試験に合格した学生が臨床実習に参加しています。

また、2023年度には、多くの医学科及び看護学科の学生が海外で語学研修や基礎研究、臨床実習を経験しました。2024年度には、看護学科で新たにネブラスカ大学医療センターでの研修が可能となり、慶北大学校看護大学での研修も再開しました。本学では、協定校を増やすことで多くの学生が留学できる環境を整えるだけでなく、海外の協定校からも多くの学生を受け入れ、国際化を一層推進しています。

将来ビジョン

- 多様性への理解と国際感覚に裏打ちされた豊かな人間性を持ち、患者第一主義のチーム医療を実践できる医療人の育成
- 独創的な先端研究に取り組み、成果を世界に発信できる研究者の育成
- 高度な知識と技術を有し、優れた実践能力を持つ専門人材の養成
- 社会課題に挑戦し、新たな価値を生み出すアントレプレナーシップの涵養

主なロードマップ	～2022年度	2023年度	2024年度	2025年度～
医学科新カリキュラム		実施		
看護学科新カリキュラム		実施		
		老年看護学開設		
		精神看護学開設		
高度実践看護コースの新設			看護教育学開設準備	
次世代創造医工情報教育センターの設置 (アントレプレナーシップ教育)		活動開始		
講義実習棟の改修		改修工事	達成	利用開始

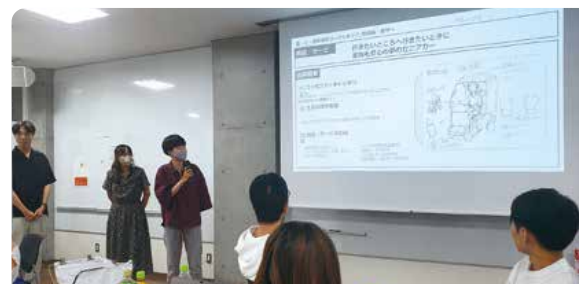
「医・工・情報連携ワークショップ」の開催

2023年8月21日に静岡大学と本学は、静岡大学浜松キャンパスにおいて、静岡大学工学部及び情報学部、本学医学科及び看護学科の学生間交流を図り、医・工・情報連携の新たな可能性を切り拓くことを目的に「医・工・情報連携ワークショップ」を開催しました。ワークショップは「高齢者がいきいきと暮らせる健康長寿のまちづくり」をテーマとして、静岡大学から工学部6名、情報学部6名、本学から医学科5名、看護学科6名の計23名の学生が参加しました。

最後の成果発表会では、各グループからこれまでにないアイデアを含んだ新サービスや、今後製品化が期待される新商品の提案があり、終了後は、学生や教職員が参加する交流会が開催され、将来の両大学での医・工・情報連携が期待されるワークショップとなりました。



グループワークの様子



成果発表会の様子

▼ 共用試験の公的化について

2023年度から、医師法の改正に伴い、共用試験※が公的化されました。この共用試験には、2種類の試験があり、コンピュータ画面上に提示される知識の修得度を評価する試験(CBT:Computer-Based Testing)と、患者さんに接する態度や診察の仕方、基本的な技能の修得度を評価する試験(Pre-CC OSCE:Pre-Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination)があります。本学でも2023年度にこれらの共用試験を実施し、合格した医学生は2024年1月から附属病院や協力病院にて臨床実習に参加しています。

※共用試験:臨床実習において、指導医の下で許された範囲の医療行為をすることを許可してよいかを判定する試験

▼ 国際交流の充実

2023年度には、タマサート大学チュラボン国際医学部と2018年に締結した皮膚科学分野における覚書を医学部全体に拡大した内容で再締結し、桂林医学院・台北医学大学医学部とは新たに学術協定を締結しました。また、海外臨床実習以外にも基礎研究・語学研修・看護演習等の留学を推進しており、2024年度は延べ57名の学生が留学する予定です。

- ・海外臨床実習……………24名
- ・国際サービス・ラーニング……………6名
- ・基礎配属留学……………5名
- ・ハワイ大学語学留学……………10名
- ・デュッセルドルフ大学語学留学……………2名
- ・国際看護演習……………8名
- ・その他自由科目単位認定……………2名

2024年度海外留学予定者の内訳



台北医学大学医学部にて

▼ 学生用PCルームの整備

臨床実習中の学生が使用する「カルテ学生記載システム」を2020年度より導入しておりますが、操作端末の不足が課題となっております。この問題を改善するために、本学では新たに学生用PCルームを附属病院多目的ホール内に整備することで、学習環境が大幅に改善され、効果的な実習が行えるようになりました。



学生用PCルームの様子

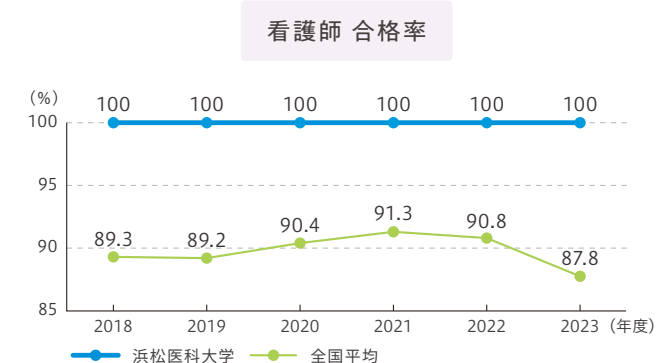
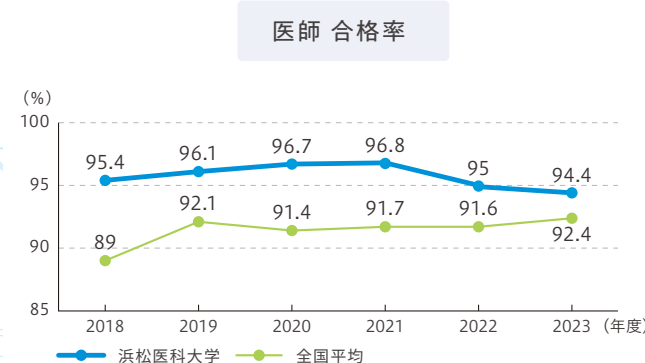
▼ 電子書籍の提供

図書館は、スマート・ライブラリ構想に基づき、電子書籍の購入を進めています。2023年度はメディカルオンラインイブックスライブラリーを導入したこともあり、7,600点ほど利用可能タイトルが増えました。9,247点の電子書籍が利用できます(2024年3月31日現在)。

学習・教育に役立つ図書館資料の充実を図るため、講座等からの推薦を受け付けており、推薦図書も積極的に電子書籍で購入しています。2023年度も53点を電子書籍で購入し、提供しています。

国家試験合格状況

2023年度の医師国家試験は合格率が低下したため、本学学生が全国平均に比して誤答率が高い分野について分析を行い、対策を進めています。また、看護師国家試験については合格率100%を維持しています。



「次世代光医工学研究成果創出拠点」の形成による本学研究の新展開



副学長(研究担当)
北川 雅敏

これまで本学は「光医学研究」を特徴として注力してまいり、開学50周年記念事業の一つとして、4月に「光医学総合研究所」を設立いたしました。光医学総合研究所では、低侵襲イメージングを含む革新的光量子技術の開発とその医学応用によるアンメットメディカルニーズ(未解決で有効な診断法、治療法が望まれる疾患)の病態解明や革新的な診断法、治療法の開発を目指しております。ここでの研究成果を利用することで、医学部や附属センターにおける疾患研究や生命科学研究においても更なる独創的な展開が期待されます。加えて文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」において設置が認められた、「ホスピタル・ラボ」、「光分子解析施設」が今年度中に竣工いたします。

共創の場「ホスピタル・ラボ」では、「次世代光医工学研究成果創出拠点」の中核として、本学及び連携機関による分野横断的共同研究が行われます。そこでの研究成果は本学発の産学官連携実施法人「奏」の協力を受けて、企業との共同開発が強力に推進されていきます。

また、「光医学総合研究所」に属する「光分子解析施設」では、マスイメージングや透明化技術を用いた神経解剖学的な先端アプローチによる未知の神経機能分子の同定及び機能解析が実行され、多様な精神神経疾患の克服への貢献が期待されます。

これら二つの施設の設置により、「医学部」、「光医学総合研究所」を中心とした本学の先端医学研究がさらに強力に推し進められ、アンメットメディカルニーズを含む疾患の病因病態解明が進み、新規診断法、治療法や医療機器の実用化が加速することが期待されます。

将来ビジョン

- イメージングコンプレックスを活用した先端的な光医学研究の進展
- こころの病や遺伝性疾患等の基礎・臨床が一体となった研究の推進と治療法の開発
- 工学・情報学等との分野横断的研究の推進によるイノベーションの創出
- 新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析によるウェルネスの創成

主なロードマップ	～2022年度	2023年度	2024年度	2025年度～
研究戦略室と5つのWGの設置		活動中		
研究支援制度の拡充		戦略的共同研究支援事業の創設(2021年度)・活動中 若手卓抜研究者制度の創出(2019年度)・実施中		
新たな研究組織の設置		光医学総合研究所設置準備	達成	設置・活動開始(2024年4月～)
先端機器の導入と共用化の推進		マスタープランに基づく機器導入によるイメージングコンプレックス体制の強化		学外web予約システムの導入

光医学総合研究所開所式・記念シンポジウム開催

2024年5月18日に浜松市内で、開学50周年を記念して設置した光医学総合研究所の開所式及び記念シンポジウムを行い、約70名が参加しました。

式典終了後の記念シンポジウムでは、「医学で叶える明るい未来医療」をテーマに、光医学総合研究所に関連する学問分野の著名な先生5名にご講演いただき、質疑応答では活発な意見交換が行われました。



今野学長挨拶



北川所長挨拶

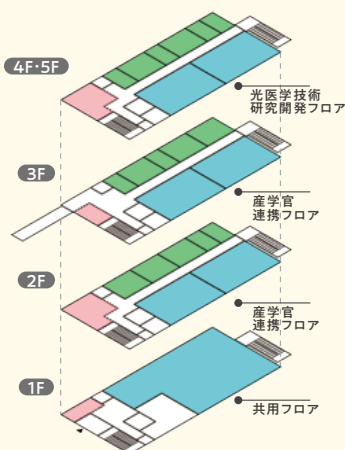


記念シンポジウムの様子

▶光医学総合研究所についてはP15(Topics)へ

「地域中核・特色ある研究大学の連携による研究施設の整備

ホスピタル・ラボ



手術室、診察室・病室を模したオープンラボで、新規医療技術の実証、新技術のtest field、近未来の病院DX化等に向けた研究開発の場です。

- オープンラボ
手術室、病室等を想定したラボと光医学技術の開発を行うエリア
- ラボサポート
ラボをサポートするオフィス機能を有するエリア
- 交流スペース
カウンターキッチンを設置した産学官が交流するエリア

研究活動の推進

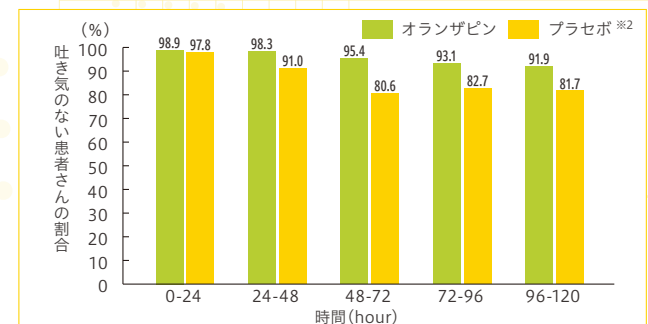
本学では、学内研究プロジェクトとして、研究費の学内助成事業を行っています。支援額を毎年増やし、支援の強化を進めています。

また、申請書作成方法の講習会開催等の研究支援活動も行っており、これらの研究支援効果により、外部資金及び科学研究費獲得額は順調に推移しています。

研究成果

オランザピンがカルボプラチンに伴う悪心・嘔吐の予防に有効! ~患者さんに優しいがん治療へ期待~

臨床薬理学講座の乾直輝教授らの研究チームは、細胞障害性抗癌剤カルボプラチンに伴う悪心・嘔吐(CINV※1)の予防に、オランザピンを併用した制吐療法が有用であることを明らかにしました。本学及び静岡県内の関連15病院での共同研究によるもので、がん薬物治療の進歩に大きく貢献する本学発の研究成果となります。



※1 CINV:がん治療に用いる薬物によって発現する、嘔吐や吐き気、気持ち悪い感じを指す
※2 プラセボ:有効成分を含まない(治療効果のない)薬

web

その他にも本学の研究成果をホームページで公表しています。
<https://www.hama-med.ac.jp/public-relations/press/index.html>



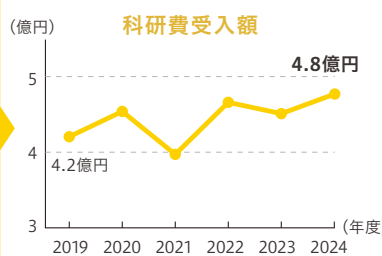
学内研究プロジェクトの支援

申請された全ての研究のヒアリングを実施
戦略的な支援額の増加

アドバイサーサービス等の実施

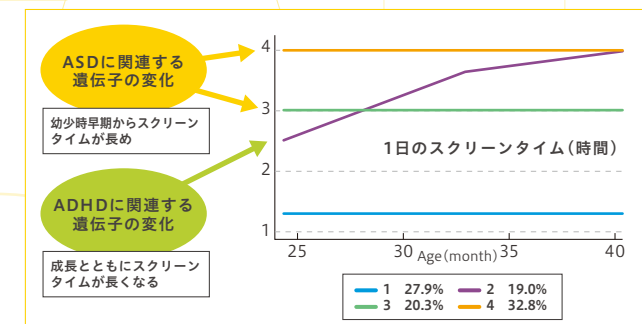
目的別の申請書作成講習会やアドバイサーサービスを重点的に実施

種類	内容
申請書作成講習会の開催	初心者講習会 分野別書き方セミナー 種目別書き方セミナー
アドバイサーサービスの実施	ブレアドバイス レギュラーアドバイス
その他	科研費研究計画調書ライブラリー



子どもの長時間のスクリーンタイムは自閉スペクトラム症の原因ではなく、早期特性の可能性であることが明らかに

子どものこころの発達研究センターの土屋特任教授らは、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症(ADHD)に関連する遺伝的リスクと、2~4歳でのスクリーンタイム※との関連を検討しました。その結果、遺伝的リスクが大きいとスクリーンタイムが長くなる傾向がみられました。長いスクリーンタイムは、ASDやADHDの原因ではなく、早期兆候の一つである可能性が示唆されます。



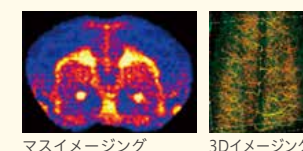
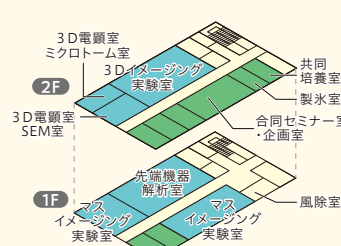
※スクリーンタイム:テレビやタブレット、スマートフォンやゲーム機器などを見たり、遊んだりして過ごす時間

産学官連携・共同研究の施設整備事業」採択

光分子解析施設



マスイメージングや3Dイメージング技術等を利用して、これまで未解決であった脳神経関連疾患の原因因子の同定と機能解析を行う施設です。



大型機器の導入

難治性疾患発症メカニズムの解明と診断・治療法確立への応用のため、2024年度に「疾患ゲノム解析システム」を導入することとなりました。従来法では不可能であった遺伝子変異の検出や発現量の変動を高精度・高効率で解析することが可能で、独創的なゲノム医療研究への発展が期待できます。

また、新設した光医学総合研究所における研究プログラムの推進にも寄与できます。さらに、国内外の研究機関及び地域の医療・工学関連企業と連携しながら、この研究設備を活用していきます。

疾患ゲノム解析システム



高精度次世代シーケンサー



キャピラリーDNAシーケンサー

新しい浜松医大附属病院 –目指せ9095達成プロジェクト–



副学長(病院担当)・病院長
松山 幸弘

浜松医大においては、2022年より先端医療センター、8床のHCU、新しいハイブリッド手術室の稼働を開始するとともに、全病棟の臓器別センター化を行うなど、素晴らしい進歩を遂げて来ました。さらに働き方改革に対応すべく病院のICT化、デジタル化を進め、外来予約システム、AI問診票、救急部カルテシステム、タブレットによる診療説明、そして病棟の個室改修とベッドサイドケア情報統合システム※を導入して看護業務の効率化をスタートしました。

近年の電気代や光熱費の高騰は想像を絶するものがありますが、他へ頼ることはできません。全国大学病院の経営状況を見てみると半数が赤字収支で、高度先進医療機器の購入や更新が困難な状況であり、診療報酬改定も十分なものとは言えません。その中で浜松医大は86%の稼働率と手術9,000件超えを達成し、黒字へ転換することができましたが、まだ十分なものではありません。

2024年度からスタートする浜松医大は今までの浜松医大の顔を忘れて新しい医大の顔に生まれ変わる必要があり、またそうでないとこの困難を乗り越えられないと思います。病床稼働90%、手術件数9,500件を目指してダッシュするのみです。方向性は見えています。**目指せ9095達成プロジェクト**です。新しい医大はそれができる病院であり、また全スタッフもその能力を持ち合わせた一致団結した集団と信じています。病院運営は決して容易な事ではありませんが、「患者さんを少しでもよくしたい、笑顔をもどしてあげたい」といった情熱さえあれば、どんなに忙しくても、また患者さんが合併症にみまわれてお互いにつらい思いをしても、一緒に乗り越えることができる、そんな心意気を持った浜松医大を全スタッフと協力して作ることで、皆様の期待に応える附属病院を目指していきます。

※ベッドサイドケア情報統合システム：病院既設の電子カルテシステムと連携し、ベッドサイド情報端末で患者情報の確認及び情報入力を行うことで、安全性の向上と看護業務支援が行えるシステム

将来ビジョン

- メディカルDXにより効率的かつ安全で高度な医療を提供するスマートホスピタルの実現
- 地域医療の中核を担う高度な能力を有した医療人の育成
- メディカルスタッフによるタスクシフトをはじめとする医療従事者の新たな働き方の実践
- 集約化・機能分化によるレジリエントな医療ネットワークの構築

主なロードマップ	～2022年度	2023年度	2024年度	2025年度～
安全で高度な医療の推進	感染制御センター設置 達成		新興感染症への対応	
		救急体制の見直し(医師の増強、特定看護師の配置) RRT活動		
	ロボット支援手術対応症例の拡大	達成	整形外科手術支援ロボット導入	
メディカルDXによるスマートホスピタルの実現	準備	タブレット診療説明 達成	ベッドサイドケア情報統合システム 外来WEB予約 AI問診 搬送ロボット	
		準備	医用画像一元管理システム VNA(Vendor Neutral Archive)	
臨床教育の充実		臨床研修プログラムの見直し 研修協力施設の拡充 指導医の育成強化		
		寄附講座の活用 大学とのダブルアポイント制度を利用した医療職のスペシャリスト育成		
医療従事者の新たな働き方の実践		特定看護師 RRT ファーストナースとしての活用 達成	特定看護師のさらなる活用 特定看護師の組織化	
			医師事務作業補助者の増員	
新たな医療ネットワークの構築		院外電子カルテ情報共有システムの導入 達成	地域医療の機能分化の推進	
		準備	地域医療連携推進法人の設立 (浜松医科大学、浜松医療センター)	
病院運営・患者サービス		差額個室リニューアル計画	病床リニューアル 差額個室料金の見直し	
	クラウドファンディング (中庭改修、高額医療機器の購入、患者イベント)	達成	プロジェクト実行	
	病床稼働率等数値目標設定 病床管理システムの導入 達成		病床稼働率の向上・手術件数の増加	

▼ Web初診予約申込受付を開始

2024年4月よりWeb初診予約申込受付を開始しました。紹介状をお持ちの患者さんであれば、一部の診療科を除き24時間365日いつでも初診予約のお申込みが可能となります。患者さんの都合の良いタイミングでWeb上から予約申込みいただけるので、利便性が向上しております。ご予約は、本院ホームページのWeb初診予約のアイコンからお申込みいただけます。

従来の電話・FAXに続く第三のツールとしてご利用いただくことで、スムーズな初診予約申込受付の実現を目指します。



▼ 外来棟中庭の再整備について

本院の病棟と外来棟の間に位置する外来棟中庭は、院内でありながら屋外の空気を感じられる空間です。この中庭を患者さんや職員の憩いの場として活用するために再整備計画が立ち上がりました。資金を得る手段として2023年3月から4月にかけて本学初のクラウドファンディング※に挑戦し、1,800万円を超えるご寄附をいただきました。

改修工事では、日差しが強い時期にも快適に過ごせるようにオーニング(日よけ)やベンチ、テーブル・イス等を設置し、出入口の一つを自動ドアに変更しました。工事終了後の2023年12月25日に中庭リニューアルイベントを実施し、外部からお招きした団体による鍵盤ハーモニカの生演奏に合わせて映像作品の上映を行いました。患者さんや教職員など合わせて100名以上が参加し、多くの人が再整備後の中庭に足を運ぶ機会となりました。

※クラウドファンディング：インターネットを介して、実施者の計画したプロジェクトに賛同した方から広く資金を募る仕組み



中庭リニューアルイベントの様子

▼ 浜松医科大学臨床研修指導医講習会

2023年12月2日、3日の2日間の日程で、令和5年度 浜松医科大学臨床研修指導医講習会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の流行により、2019年度から実に4年ぶりの開催となりました。この指導医講習会は研修医への指導を行う指導医を養成することを目的とした講習会であり、2023年度は院内及び周辺病院から参加した46名の受講者が修了して指導医となりました。

今後も、本学及び周辺病院の指導医を増加させ研修をより良くする取組を行ってまいります。

指導医講習会の様子(開講式・全体講義)



指導医講習会の様子(全体発表・閉講式)



▼ 特定看護師によるRRT、ファーストナースの活動

本院では、看護キャリア開発センターで、医師から看護師へのタスク・シフト/シェアとなる特定行為※1の研修を開催しています。これまでに院内外の69名が本センターの研修を修了し、それぞれの医療機関で活躍しています。

本院の特定看護師は、2021年11月から、院内迅速対応システム※2(Rapid Response System)の主軸となって、危険なバイタルサインの相談に応じています。当初は平日の日勤帯のみでしたが、2023年2月からは24時間365日へ拡大し、現在ではRRT※3(Rapid Response Team)として活動しています。また、同年12月から救急外来でファーストナースの運用を始めました。ファーストナースは夜間・休日の患者さんからの問合せに対し、病状を判断して迅速に適切な部署へ取り次ぎを行うパイプ役を担っています。

RRTとファーストナースの活動により、より安全により迅速に、急変対応や患者さんを引継ぐことが可能になりました。今後も多くの患者さんの命を救うため、スタッフ一同尽力してまいります。

※1特定行為 …… 特定行為研修を修了し、高度で専門的な知識・技能を身につけた看護師が、医師による手順書をもとに行う診療の補助のこと

※2院内迅速対応システム …… 院内で患者さんの心肺停止や重大な合併症の発症を未然に防ぐための体制のこと

※3RRT …… 院内迅速対応システムに基づき患者さんの急変に対応する初動チーム



業務にあたる特定看護師

産学官連携・地域連携のさらなる発展



副学長(共創・イノベーション担当)
中村 和正

2022年度に設立された次世代創造医工情報教育センター(Nx-CEC)では、「アントレプレナーシップ部門」、「データサイエンス部門」の活動がさらに活発になっています。これらの教育を通して「おもしろい」学生がNx-CECの活動に加わるようになり、日本貿易振興機構の「海外チャレンジ賞」を勝ち取って米国研修プログラムへ参加したり、林業の労災を防ぐアプリを開発したり、などの様々な活動が行われています。2024年4月には光医学総合研究所内にスタートアップ支援・URA室を立ち上げ、新しい教員、特任研究員が加わりました。Tongali(東海地区大学コンソーシアムによる起業家育成プロジェクト)や、はままつ・スタートアップイノベーション拠点推進協議会などに参加し、地域の行政、企業、教育機関等と共創しながら、起業家精神、デザイン思考の素養を基盤として社会課題解決に挑戦する人材の育成を進めてまいります。

2023年度に文部科学省からのご支援で設立された地域創成防災支援人材教育センター(R-CEC)では、地域医療学講座の協力も得ながら、医療目利き人材、地域防災・原子力防災を行う人材の育成を行っています。2024年度には浜松市から委託をうけ、災害時に活躍する地域サポートナース研修会を開始しました。また、2025年度からは学生に対する防災教育を強化するべく準備を進めています。

現在、光技術・ものづくり技術を活用した医工連携研究を推進するための新しい実証施設「ホスピタル・ラボ」を建設中で、2024年7月には浜松医科大学産学官連携実施法人「株式会社はままつ共創リエゾン奏(かなで)」が本格的に活動を開始しました。今後、産学官金連携による医療機器開発がスピーディーに、かつ大きく進むものと期待しております。

将来ビジョン

- 産学官金連携推進体制の強化による革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成
- 地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携したインクルーシブで持続可能な「ウェルネス社会」の共創

主なロードマップ	～2022年度	2023年度	2024年度	2025年度～
産学官金連携の推進	産学官連携部門の外部法人化を検討	達成	外部法人の設置・活動開始	
		ホスピタル・ラボの設置・活動開始		
	次世代創造医工情報教育センター設置・活動開始(2022年度)			

▼地域創成防災支援人材教育センターの設置

文部科学省からの支援を受け、2023年に地域創成防災支援人材教育センター(R-CEC)を設置しました。

静岡県は南海トラフ地震に強く影響を受ける地域であり、また、県内には浜岡原子力発電所(御前崎市)を有しており、防災・原子力防災に対応できる人材の養成及び地域住民への啓発が非常に重要です。当センターは、地域の社会課題、特に感染症を含めた救急・災害医療等に対してイノベーションを起こし、地元自治体や企業など地域と共創しながら、防災支援のための人材教育、医療目利き人材養成や機器開発、システム構築を行い、課題解決を推進することを目的としています。

具体的には、地域防災・原子力防災に関する防災教育ツールの開発や、災害時に現場で行動が求められる地域住民や自治体職員等を対象に、医療者が実施するトリアージへのバックアップ体制を構築する方法など、防災対応、外傷等の応急手当、感染症防止対策、その他未病等の基礎知識が身につく防災医療、一般医療に関するプログラムを開発し、講座・セミナーを開催する等、地域防災・原子力防災に寄与する取組を実施します。

また、2024年4月に設立した「株式会社はままつ共創リエゾン奏」や浜松市、地元金融機関、はままつ医工連携拠点等と連携し、医療産業のスタートアップ支援に資する取組を実施します。



▼産学官連携の取組

本学が中心となって運営している「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点(通称:はままつ医工連携拠点)」では、浜松商工会議所・浜松医工連携研究会(100社)と連携し、医療・介護現場との情報交換会や医療・介護現場の現場見学会を開催しています。これらの取組により、医療現場のニーズに基づいた研究シーズを創出し、実用化・製品化を達成しています。

また、セミナーやフォーラムを開催するなど、地域の医療における産業界との連携に力を入れています。



医療現場見学会の様子

▼地域の教育・人材育成への貢献

中部電力株式会社による寄附講座である地域医療学講座では、災害医療(特に原子力災害医療)に関する人材の育成を行っています。また、掛川市・御前崎市・牧之原市をはじめとする中東遠・志太榛原医療圏の病院運営の安定化に向けた人材の育成に向け、行政単位を越えて両医療圏における通常の医療サービスが健全に機能するための連携体制を検討しています。"いつでも、どこでも、誰でも最善の医療サービスを受けられる体制の実現を目指して"をテーマに、地域住民を対象とするシンポジウムや病院職員を対象とするセミナーを開催し、地域医療を守り、支える活動の輪を広げていきます。



地域医療支援ネットワーク協議会の様子

《2023年度取組》

- ◆ 地域医療支援ネットワーク協議会開催
- ◆ 冊子「医師になる」作成
- ◆ 医療と介護に関するシンポジウム(静岡県からの受託事業)開催
- ◆ 放射線の品質管理活動 他

▼次世代創造医工情報教育センター 人材育成への取組

次世代創造医工情報教育センター(Nx-CEC)では「アントレプレナーシップ部門」と「データサイエンス部門」において、地域の行政、企業、教育機関等と共創しながら、起業家精神、デザイン思考の素養を基盤として社会課題解決に挑戦する人材を育成しています。



ビジネスプランコンテストファイナル出場

「Tongali※ビジネスプランコンテスト2024」の決勝戦に本学の学生団体『SAHMeT』が出場し、「エコー実技教育AIシステム開発～医学教育を効率化～」のタイトルでプレゼンテーションを行い、サポーター賞の「TKC中部会賞」を受賞しました。

※Tongali:東海地区大学コンソーシアムによる起業家育成プロジェクト



労働災害防止アプリの開発

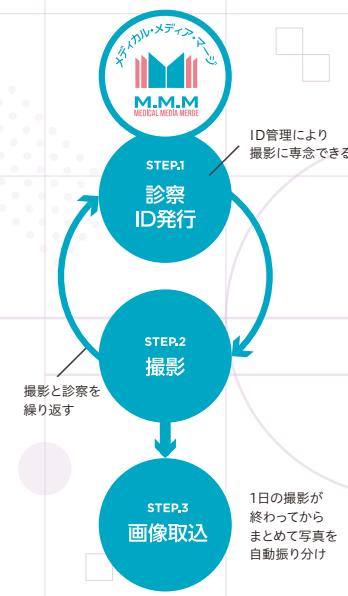
林業における労働災害の防止対策として、林業作業員同士が近接した際に注意喚起アラームを発信するアプリケーション(名称Wood Worker Watch; 略称WoWoWa)の開発に、当センターの齊藤准教授の下、医学科3年生の鈴木健心さんがアプリケーションプログラムの作成で携わりました。

実用化された開発技術

本学では、大学発ベンチャー企業を含めた民間企業等との共同研究によって生まれた研究シーズを実用化・製品化することにも力を注いでいます。

事例:写真整理システム

皮膚科学講座本田教授と「株式会社ロジック」との共同開発で「M.M.M(Medical Media Merge)」をリリースしました。医療現場で手作業で行っていた臨床写真の整理を自動化することにより、労務軽減、時間短縮、コストダウン、セキュリティ向上を実現させるシステムです。



さらなる飛躍を目指して



理事(企画・評価担当)・副学長
須田 隆文

本学は2024年6月に50周年を迎え、開学以来大きく成長してまいりました。これもひとえに学生・教職員をはじめ、保護者や地域の皆様、行政関係者、医療関係者など、本学に関係する全ての皆様のご理解・ご支援があったからこそと深く感謝しております。

さて、現在、大学経営を取り巻く環境は、物価の高騰などにより厳しさを増しています。こうした中でも、教育・研究・診療活動を高いレベルで持続するため、価格交渉の強化など経費削減に取り組むとともに、財務運営にあたっては公的資金に頼るだけでなく、寄附金やクラウドファンディング、産業界からの資金を積極的に受け入れ、多様な財源の確保に努めています。また、保有する資金については、リスクに配慮しながら積極的な資産運用を行っています。

また、効率的な業務運営には、情報と人材の活用も不可欠です。情報化の推進や蓄積されたデータの利活用によりエビデンスに基づく業務運営を目指すとともに、職員のキャリアアップ支援の充実を行い、業務の高度化を図っています。今後も、デジタルキャンパスを推進するとともに誰にとっても働きやすい環境の整備を進め、タスクシフトを含めた職員の働き方改革を実践していきます。

本学の経営方針、今後の計画やこれに対する進捗状況、自己点検・評価の結果、さらには教育研究の成果や社会貢献の取組などについて、本統合報告書をはじめ様々な媒体を通じて、積極的に情報発信していきます。また、関係者の皆様との対話により本学に期待される機能や役割を理解し、実践していくことで、さらなる飛躍を目指してまいります。

将来ビジョン

- 外部有識者やその他ステークホルダーとの対話とエビデンスに基づく戦略的大学経営
- 財源の多元化や資産運用等の拡大による安定的な財務運営
- イノベーション・commonsの実現、病院機能の強化とデジタル・キャンパスの推進

主なロードマップ	～2022年度	2023年度	2024年度	2025年度～
外部有識者やステークホルダーとの対話	浜松地区大学再編・地域未来創造会議への参加			
	統合報告書の発行			
	開学50周年記念事業の検討			式典開催
財源の多元化と資産運用等の拡大	投資信託等による運用の検討			
	講義実習棟の改修			達成
施設整備、デジタル・キャンパスの推進	ホスピタル・ラボの設置			利用開始
	光分子解析施設の設置			利用開始
				達成

クラウドファンディングの実施

物価・エネルギー価格の高騰などによる厳しい財務状況の中でも、血液がんに対する診療体制を充実させることや、病気の早期発見・早期治療につなげるための啓発活動を実施することを目的として、2件のクラウドファンディングに挑戦しました。

プロジェクトタイトル:

「難治性血液がんをCAR-T細胞の力で治すため、充実した治療環境を！」

寄附総額 26,679,000円
目標金額 10,000,000円
寄附者 530名
実施期間 2024年1月22日～3月21日

目的 遠心型血液成分分離装置購入による診療体制の充実



プロジェクトタイトル:

「静岡県から世界に先駆けウイルス性肝炎を撲滅しよう！」

寄附総額 2,285,000円
目標金額 1,600,000円
寄附者 104名
実施期間 2024年3月25日～5月23日

目的 啓発イベントの実施によるウイルス性肝炎に関する知識の普及

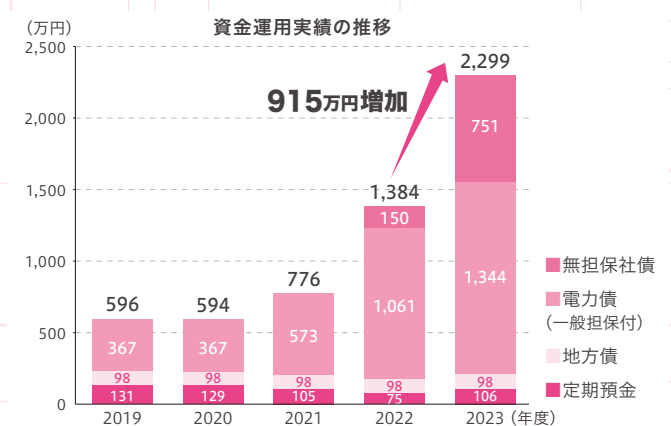


資金運用拡大の取組

業務上の余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定を受けたことにより、安定した中長期的な運用を見据え、収益性の高い金融商品での運用を行っています。

資金運用管理委員会において、金融資産のリスク・リターンの詳細を見極め、外部委員を含めた審議体制にて積極的に投資したことで運用実績が向上しています。

2023年度は主に無担保社債を中心に過去最大の12億円の債券購入を行った結果、運用益は2022年度と比較して915万円増加しました。

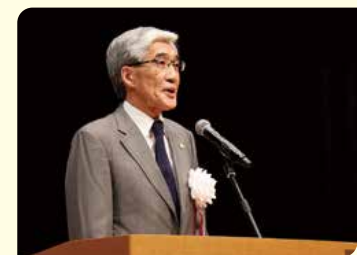


開学50周年記念式典

2024年6月10日、アクティシティ浜松大ホールにおいて、浜松医科大学開学50周年記念式典を挙行了しました。本学教職員、教育・医療関係者、学生約500名が出席しました。式典では今野学長が「本学は次の100周年に向けて国立大学法人のミッションを果たしつつ、世界に飛翔する大学を目指す」と挨拶し、本学のさらなる発展を誓いました。続いて、池田貴城文部科学省高等教育局長、鈴木康友静岡県知事、中野祐介浜松市長、塩谷立元文部科学大臣、滝浪實浜松医科大学同窓会松門会会長からご祝辞をいただきました。また、姉妹校である中国医科大学(中国)、学術交流協定校である慶北大学校医科大学(韓国)・ネブラスカ大学医療センター(アメリカ)よりお送りいただいたビデオレターを上映しました。

式典終了後には、「最近の医療情勢とその課題」と題して、日本医師会長・本学1期生の松本吉郎先生による記念講演会を開催しました。

引き続き開催した祝賀会では、今野学長の挨拶の後、森貴志静岡県副知事、加陽直実次期静岡県医師会長、毛利博静岡県病院協会会長、斉藤薫浜松商工会議所会頭からご祝辞をいただき、山崎昇元浜松医科大学長の乾杯の発声で幕を開けました。また、鳥井徳孝浜松市議会議長、小出幸夫半田山会(名誉教授の会)代表、山本清二はままつ共創リエゾン奏代表取締役社長から、ご祝辞をいただきました。懇談の後、渡邊裕司理事の謝辞で閉会しました。



同窓生リレー講演会

開学50周年を記念し、国内外の様々な機関で活躍している卒業生にリレー形式で講演いただくことで、在校生はもちろん本学職員も卒業生を誇りとして今後の励みにつなげることを目的に開催しました。

1. 「母子の最善を目指して」 2023年2月1日

東京女子医科大学産婦人科学講座・母子総合医療センター
水主川 純 教授(医学科21期生)



卒後から現在に至るまでのキャリア形成や、医療現場での体験を、ユーモアを交えながら大変分かりやすくお話しいただきました。

2. 「循環器(不整脈)診療は面白い：臨床研究の勧め」 2023年6月16日

福井大学 医学部病態制御医学講座
循環器内科学
茅田 浩 教授(医学科6期生)



学生時代の思い出や研究・論文発表の重要性、留学の魅力、そして循環器内科学に関する臨床研究についてなど、様々な内容をお話しいただきました。

3. 「医学研究から病院運営へ～一期生として道なき道への50年」 2024年1月25日

湘南鎌倉総合病院
小林 修三 院長(医学科1期生)



本学1期生として歩んでこられた学生時代から現在までのエピソードや研究活動、腎臓内科医を志したきっかけや現在の院長としての目標など、医療に対する熱い探求心をお話しいただきました。

2023年度から2024年度の主な施設整備（整備中を含む）

教育・研究・医療・産学官金連携に係る環境の充実や来学される方々の利便性向上のため、様々な施設・設備を整備しています。

- 病院施設
- 大学施設
- 基幹環境整備

1
病院中庭再整備

工期
2023.9 ～ 2023.12

クラウドファンディングにより、外来棟の中庭にオーニングやベンチなどの設備を拡充し、外の空気に触れながらゆっくりと過ごせる憩いの場として整備しました。

2
病棟照明改修

工期
2023.12～2024.2(Ⅰ期)
2024.10～2025.3(Ⅱ期)《予定》

静岡県医療提供体制施設整備事業費補助金（地球温暖化対策施設整備事業）により、省エネ効果が高い24時間365日点灯している病棟廊下等の照明をLEDへ更新することで、地球温暖化対策への取組を推進します。

ライフライン再生

対象 / 工期
給水設備 / 2023.8 ～ 2024.3
屋外通信線 / 2024.9 ～ 2025.1《予定》
屋外ガス管 / 2024.10 ～ 2025.3《予定》

施設の長寿命化を実現させるため、老朽化が進行したライフラインの健全化を図り、未然に事故を防止します。安全・安心な教育・研究・医療環境等を確保するため、計画的に対策を実施しています。

3
講義実習棟改修

建築面積 / 延床面積
2,308㎡ / 7,061㎡

構造 / 階数
鉄筋コンクリート造 / 地上3階 地下1階

工期
2021.6～2022.3(Ⅰ期)
2022.4～2023.3(Ⅱ期)
2023.4～2024.3(Ⅲ期)

医療人材を育成する拠点として、老朽化した建物の再生と未来を見据えた教育環境を整えるため、多機能かつフレキシブルな学修環境及びICT環境に対応できる施設として整備しました。

4
ホスピタル・ラボ

建築面積 / 延床面積
549㎡ / 2,511㎡

構造 / 階数
鉄骨造 / 地上5階

工期
2024.1 ～ 2025.3《予定》

地域産学官連携科学技術振興拠点施設整備費補助金（地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業）により、主に新規医療技術の実証、近未来の病院DX化等に向け開発研究を行う実験室として実用化・事業化を推進する施設を整備しています。

5
光分子解析施設

建築面積 / 延床面積
367㎡ / 726㎡

構造 / 階数
鉄骨造 / 地上2階

工期
2024.2 ～ 2024.12《予定》

地域産学官連携科学技術振興拠点施設整備費補助金（地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業）により、藤田医科大学の連携大学として、脳神経病態研究の研究推進と広範囲な共同研究の活性化を促し、創薬等の社会実装を促進する施設を整備しています。

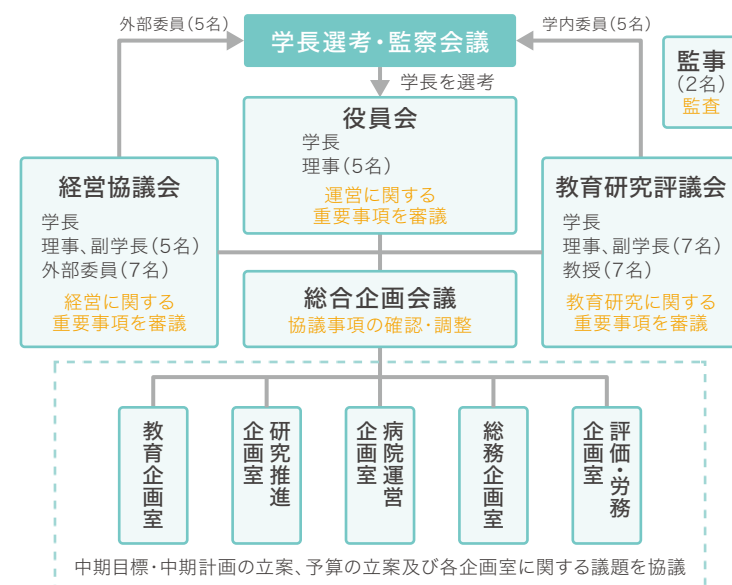
内部統制の整備に関する情報等

◆ 運営組織図

本学では、各分野の専門的事項等を協議するため5つの企画室を置き、室長には、その分野を所掌する理事、副学長を充てています。この企画室では、中期目標・中期計画の立案及び予算の立案について一体的に協議を行うことにより、目標達成に向け効率的な体制を構築しています。

さらに、学長や各企画室長等で構成される総合企画会議では、各企画室において協議された事項について、改めて確認・調整を行った上で、中期目標・中期計画や予算等の重要な事項については、国立大学法人法で設置が定められている教育研究評議会、経営協議会及び役員会において審議しています。

また、国立大学法人法に基づき本学の業務を監査するため監事を置いています。

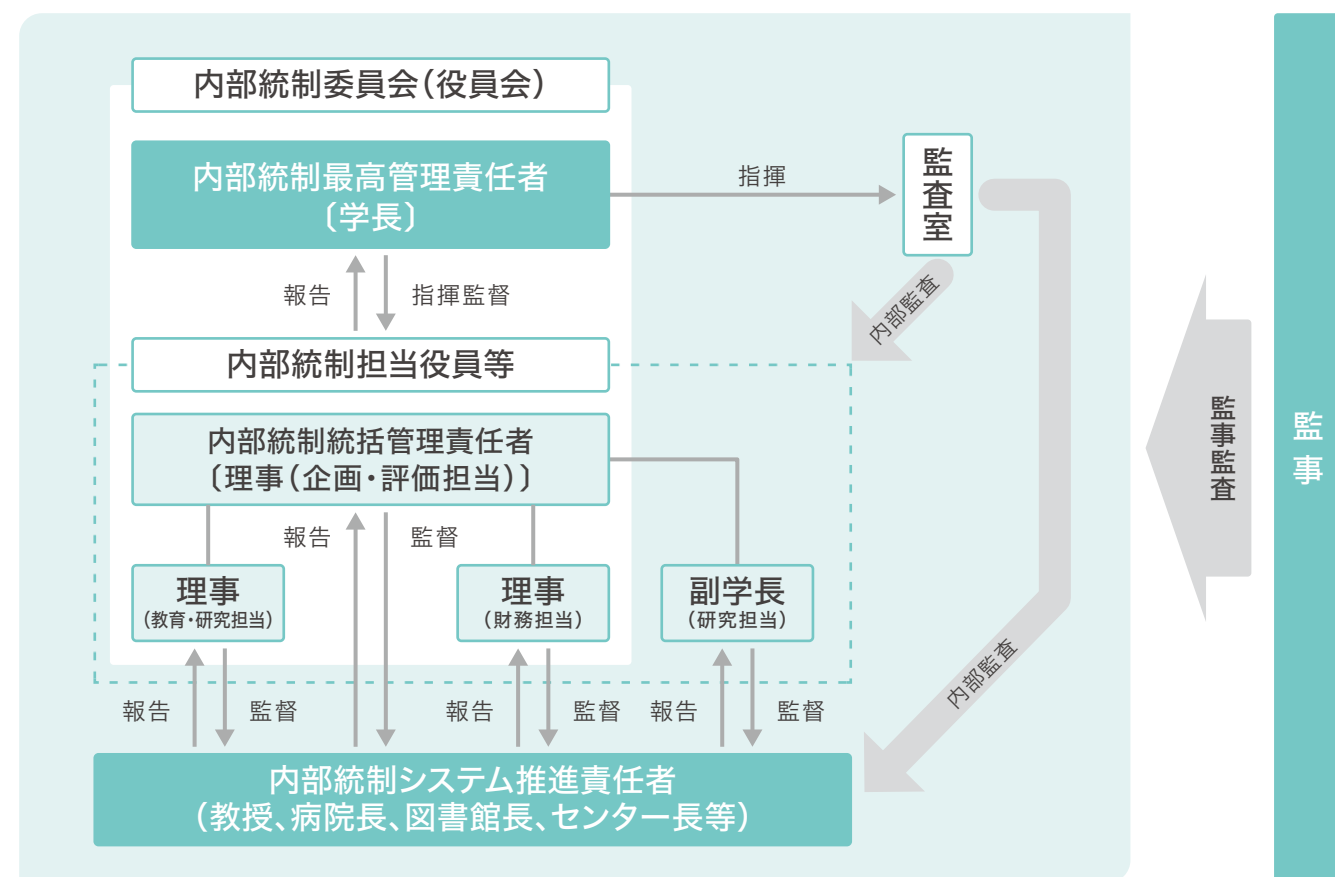


◆ 内部統制

本学では「国立大学法人浜松医科大学業務方法書」に基づき、業務の適正を確保するための体制を整備・運用するため、「国立大学法人浜松医科大学内部統制システムの整備及び運用に関する規則」を定めています。内部統制は、「①業務の有効性及び効率性、②財務報告の信頼性、③事業活動に関わる法令等の遵守、④資産の保全」を目的としており、本学は以下に示す体制により内部統制システムを運用しています。

本学は内部統制システムの継続的な見直しを行いながら、業務の有効性・効率性の向上を図りつつ、コンプライアンスを推進し、関係者の皆様の期待に応えられるよう努めています。

内部統制に係る組織図(イメージ)



◆ 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応

国立大学法人ガバナンス・コードは、国立大学法人に高い公共性が求められ、各種の財政支援等が行われていることから、強固なガバナンス体制を築くとともにそのことを多様な関係者に対して明らかにするため、政府の「統合イノベーション戦略(2018年6月15日閣議決定)」を踏まえ、2020年3月に国立大学協会が文部科学省、内閣府の協力を得て策定しました。

ガバナンス・コードの実施を通じて教育・研究・社会貢献機能を高めるとともに、経営の透明性を高めて、社会への説明責任を果たすため、毎年度、その適合状況に関する報告書を公表しています。

なお、ガバナンス・コードは70の基本原則、原則、補充原則から構成されており、本学は全ての原則に対応していることを確認しております。



国立大学法人ガバナンス・コードへの対応状況は、ホームページで公表しています。
<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/governancecode.html>



◆ 研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止への対応

本学では、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン(2014年8月26日 文部科学大臣決定)」及び「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)(2007年2月15日 文部科学大臣決定 2021年2月1日改正)」に基づき、以下の責任体制の下、研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止に向けて取り組んでいます。

責任体系

研究費の運営・管理

研究費不正防止 最高管理責任者	学 長	■ 法人統括
研究費不正防止 統括管理責任者	理事(財務担当)	■ 学長補佐 ■ 研究費不正防止統括
コンプライアンス 推進責任者	事務局次長 (総務・教育担当)	■ 不正防止対策の実施 ■ コンプライアンス教育の実施・管理
各講座等の主任教員		■ 所属職員への周知徹底 ■ 法令及び関連規則遵守 ■ 研究費適正使用の遵守

研究活動の不正行為防止

研究公正 最高責任者	学 長	■ 法人統括
研究公正 統括責任者	副学長 (研究担当)	■ 学長補佐 ■ 不正行為防止事務統括
倫理教育 統括責任者		■ 学長補佐 ■ 研究者倫理向上事務統括
研究公正・ 倫理教育責任者	各講座等の 主任教員	■ 所属職員への周知徹底 ■ 法令及び関連規則遵守 ■ 研究者倫理の向上

関係組織等

研究費不正防止計画推進委員会

- ・不正防止計画の策定・実施
- ・実施状況及び監査結果の確認と必要に応じた是正対応

研究活動公正推進委員会

- ・研究倫理の向上を図るための教育、研修及び啓発
- ・不正行為への対処並びに研究の公正な推進

窓 口

- 監査室
・告発窓口
- 研究協力課
・研究活動の不正行為防止
- 会計課
・研究費の運営・管理

主な取組

- スタートアップミーティングの実施(関係各部署の事務局職員が国等からの受託研究費を獲得した各講座等担当者(教員・事務補佐員)に対して個別に執行ルールや事務手続等の注意事項などを説明し、連携・情報共有・意識統一を図ります。)
- 定期的な不正防止に関する講習会の実施
- e-learningによる研究倫理教育の実施



研究費の不正使用防止等に関する基本方針や規則等は、ホームページで公表しています。
<https://www.hama-med.ac.jp/research/fraudulent/index.html>



国立大学法人の会計制度

本学を支えてくださる多くの皆様に、本学の財務情報の概要をご理解いただくため、国立大学法人特有の会計制度について、簡潔にご説明いたします。

◆国立大学法人会計と官庁会計、企業会計との違い

国立大学法人の会計制度は、企業会計原則を基本としていますが、国立大学という公共的な性格や特殊性を踏まえて、企業会計とは異なる独特な会計制度（国立大学法人会計基準）が採用されています。

区分	目的	利害関係者	利益の獲得
国立大学法人会計	財政状態・運営状況の開示	国民その他の利害関係者	目的としない
官庁会計	予算とその執行状況の開示	国民、住民	目的としない
企業会計	財政状態・経営状態の開示	株主、投資家、債権者等	目的とする

- 主たる業務は「教育・研究」等のサービス提供であり、利益の獲得が主目的ではありません。例外的に附属病院における診療等については、利益の獲得はある程度考慮され企業会計と同様な処理となります。
- 独立採算を前提とせず、国からの財政支援（運営費交付金等）があります。

◆国立大学法人会計の財源（収入源）

国立大学法人は、国からの運営費交付金、学生からの納付金（授業料、入学料、検定料）、附属病院収入、企業からの寄附金、受託研究費等を財源（収入源）として運営されています。それぞれの財源（収入源）はそれぞれの性質に応じて会計処理がなされます。



◆国立大学法人の利益

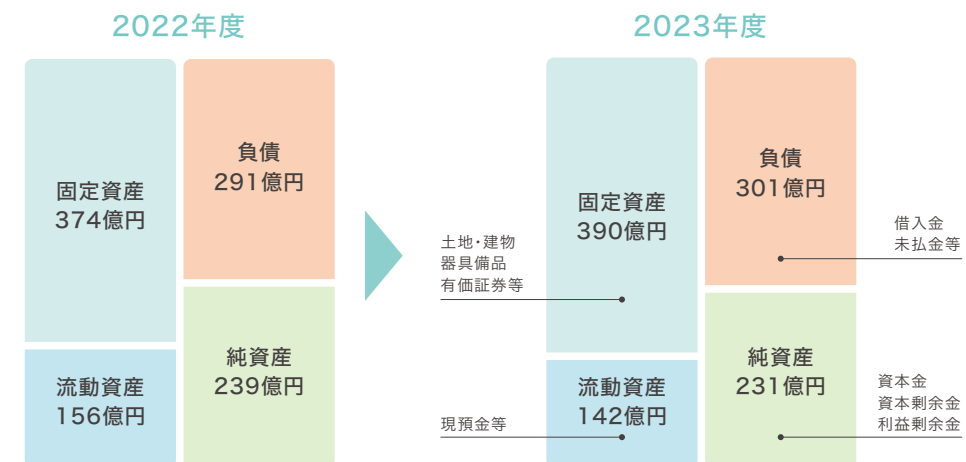
国立大学法人の利益は、計画された業務を効率よく実施したことによる費用の削減や、積極的な自己収入増加を図ったことにより発生した利益です。この利益のうち、大学の運営努力によるものとして文部科学大臣の繰越承認を受けた利益は、「目的積立金」として、中期計画で定めた使途に従い、次年度以降「教育研究診療の質の向上及び組織運営等の改善」のために使用することができます。



財務諸表等の概要

◆貸借対照表

事業年度決算日3月31日における資産、負債、純資産を表し、財政状態を明らかにしています。土地、建物や器具備品等の資産、借入金等の負債及び国からの出資等の純資産を元に教育、研究、診療の業務活動を行っています。



主な増減要因等

・固定資産（前年度比16億円増）

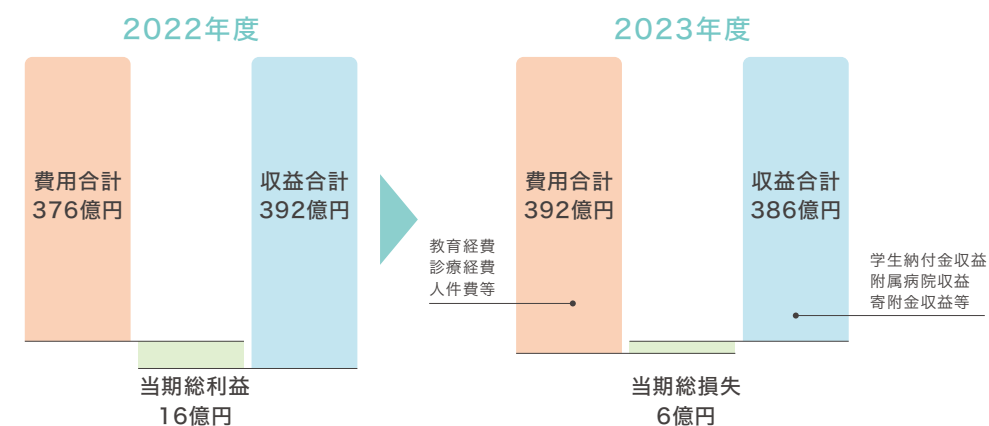
講義実習棟改修工事（Ⅲ期）、基幹整備（給水設備等）Ⅲ期工事、放射線画像診断・治療システム、核医学画像診断システムの整備等により増加しました。

・負債（前年度比10億円増）

総合医療情報システムの更新により増加しました。

◆損益計算書

年度内に実施した事業により発生した費用、収益を表し、一年間の運営状況を明らかにするものです。教育、研究、診療の業務・目的別に費用を示し、運営費交付金収益や附属病院収益等の財源別に収益を示します。



主な増減要因等

・費用（前年度比16億円増）

手術件数等の増加に伴う材料費増及び高額薬剤の使用増により増加しました。

・収益（前年度比6億円減）

入院患者数の増加や診療単価の向上等により附属病院収益は増加しましたが、2022年度は国立大学法人会計基準等の改訂に伴う国立大学法人特有の資産見返負債の収益化があったことから、収益全体では対前年度比で減少となったことや、2023年度は固定資産の耐用年数の修正を行ったことから、当期総損失を6億円計上しました。

◆純資産変動計算書

純資産とは、資産から負債を控除した額に相当するもので、国立大学法人の会計上の財産的基礎及び業務に関連し発生した剰余金等から構成されています。上記貸借対照表の純資産です。

この計算書は、2022年度より新たに財務諸表の一つとして追加され、財政状態と運営状況との関係を表すため、事業年度内の全ての純資産の変動を記載しています。

※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。

財務諸表等の概要

◆ キャッシュ・フロー計算書

事業年度の資金の流れを「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3つの区分に分けて表示しています。

[業務活動によるキャッシュ・フロー]

国立大学法人等の通常の業務の実施に係る資金の状態を表します。資金を獲得した場合はプラス、流出した場合はマイナスになります。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

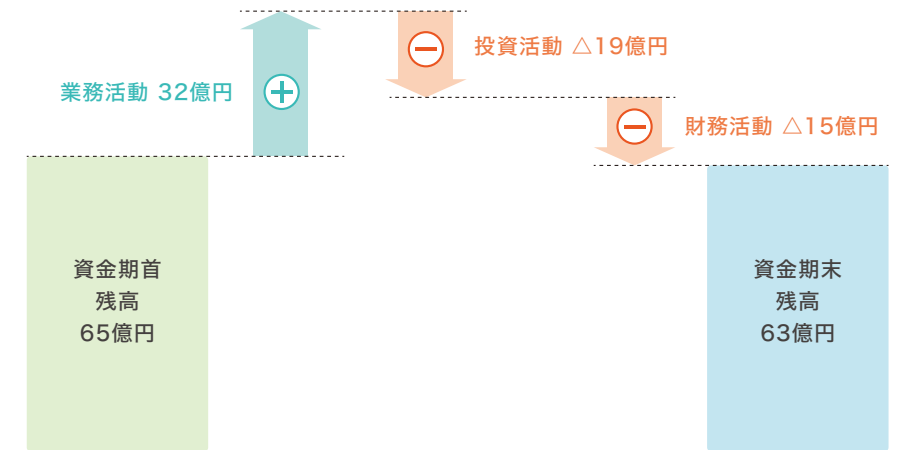
将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表します。資産等売却の場合はプラス、資産等への投資の場合はマイナスになります。

例：固定資産の取得による支出、施設費による収入など。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

資金の調達及び返済に係る資金の状態を表します。資金を調達した場合はプラス、債務等を返済した場合はマイナスとなります。

例：大学改革支援・学位授与機構からの長期借入金の返済による支出、長期借入による収入など。



※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。

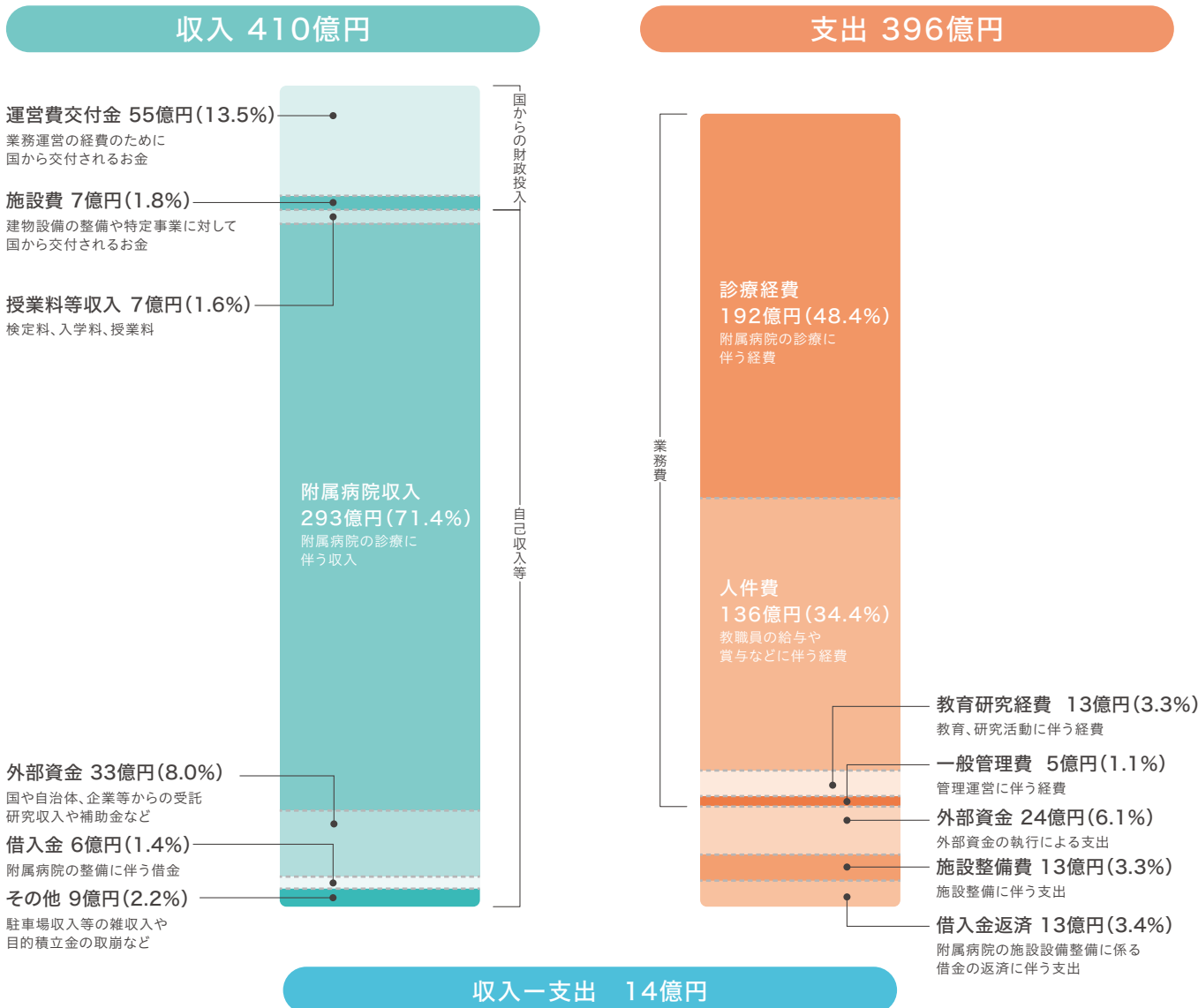
〈参考〉キャッシュ・フロー計算書のパターンと判定

今回、「業務活動」についてはプラス、「投資活動」「財務活動」についてはマイナスとなっているため、パターン④に該当します。国立大学法人で通常想定されるパターンであり、健全な事業活動を行っています。

	業務	投資	財務	財務状況	備考
①	+	+	+	不必要な資金調達を行っており、資金に無駄がある。	
②	+	+	-	本業で資金を獲得し、借入金返済に充当する一方で、設備投資を抑制している。	
③	+	-	+	本業で資金を獲得し、さらに借入による設備投資も行っている。	
④	+	-	-	本業で資金を獲得し、設備投資や借入金返済に充当している。 本学はこれに該当しています。	国立大学法人で通常想定されるパターン。
⑤	-	+	+	本業で資金が不足しているため、借入により賄い、投資も抑制している。	
⑥	-	+	-	本業で資金が不足しているため、投資を抑制し、借入金返済を行っている。	
⑦	-	-	+	本業で資金が不足しているため、借入により設備投資を行っている。	
⑧	-	-	-	本業で資金が不足しているが、設備投資を行い、借入金返済も行っている。	一般的に、附属病院等で赤字が出ている等、資金不足となっている状況。

◆ 決算報告書

決算報告書とは、国における会計認識基準に準じ、現金主義を基礎としつつ一部発生主義を取り入れて国立大学法人等の運営状況を収入・支出ベースで報告するものです。収入については、附属病院収入等の自己収入が運営資金の大半を占めています。また、支出については、業務費のほとんどを診療経費と人件費で占めています。

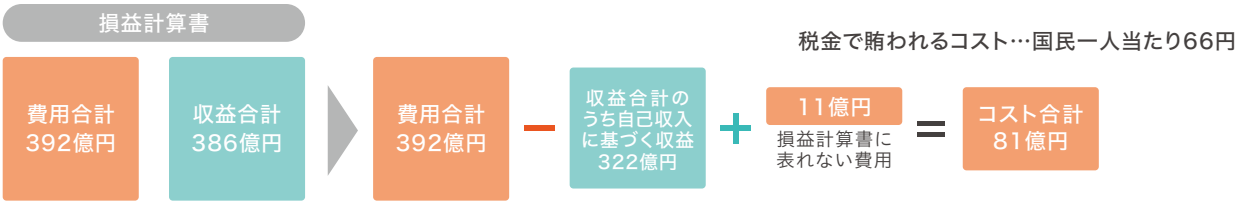


外部資金等の繰越分。2023年度の剰余金はありませんでした。

※各金額は単位未満を四捨五入しているため、計が一致しない場合があります。

◆ 国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

教育・研究・診療等の業務運営に関して、どれだけの費用(コスト)が国民の税金で賄われているか注記して表しています。業務に対する評価及び判断に資するものです。

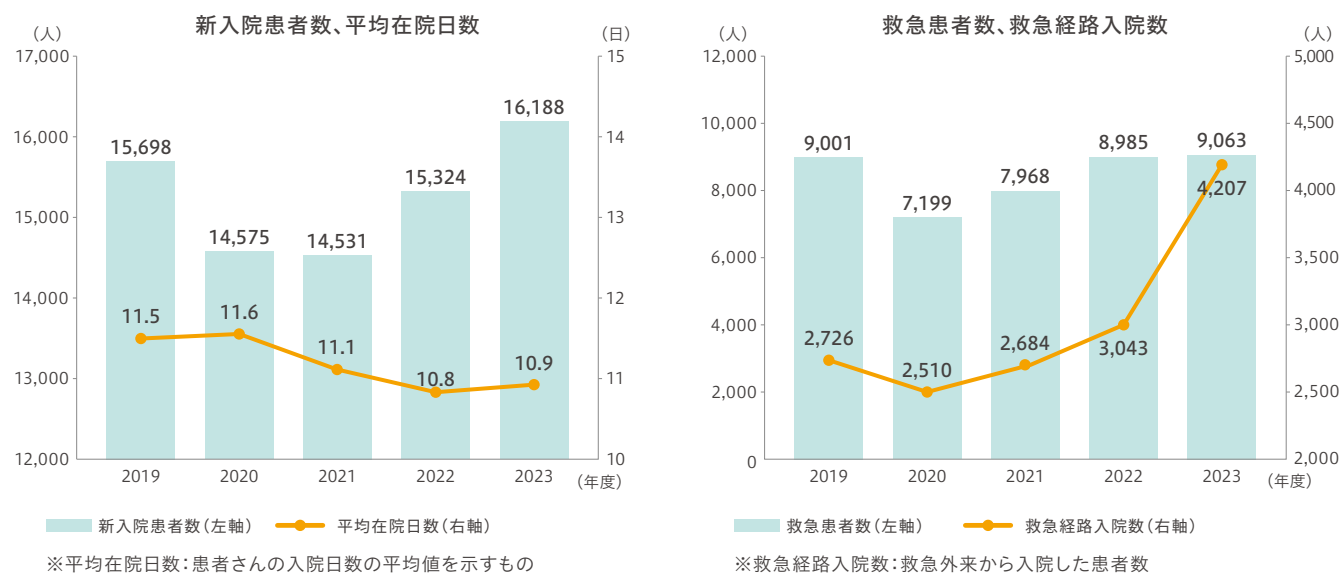
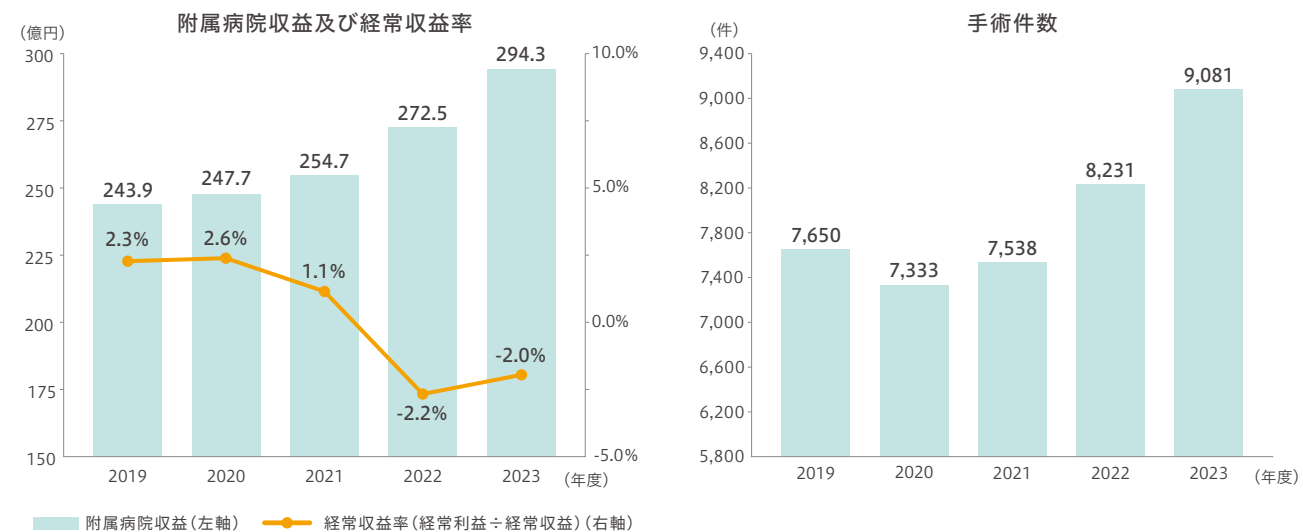


※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。

医学部附属病院の財務状況

附属病院の財務状況について、診療経費が前年度と比較し、主に大学病院として高度な医療に必要となる高額な医薬品材料の使用増に伴い、医薬品費が11.4%（約8.7億円）増、診療材料費が6.8%（約3.1億円）増となっており、一方で水道光熱費が22.6%（約1.0億円）減、備品費は前年度比20.4%（約0.2億円）減に抑えたものの診療に必要な経費全体で前年度比3.8%増となっています。対して、病床稼働率85.9%、手術件数9,081件と前年度を大きく上回る診療実績となっており、病院収入も11.6%（約30.6億円）増となりました。

水道光熱費等の高騰は一時期より落ち着いたものの、以前と比較すると引き続き高い水準で推移しており、病院収入の増加に向けた取組に加え、経費削減を恒常的に意識して調達方法の見直し等を継続し、安定的な経営に向けて努めてまいります。



◆ 附属病院の取組

地域の中核的な医育・医療機関として浜松市、近隣医療機関や介護施設等と相互に緊密な連携を図りながら機能分化を加速させ、効率的な地域の医療体制の構築を目指すほか、2022年1月に稼働開始した先端医療センターを効果的に運用するとともに医療機器等の整備を拡充し、高度医療・低侵襲医療を推進するため、様々な取組を実施しています。

また、2023年度から2024年度にかけて、メディカルDX（医療分野において、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること）を病院の目標に掲げ、外来予約システムやAI問診票、救急カルテ入力支援システム、ベッドサイドケア情報統合システムなどの導入を進めています。

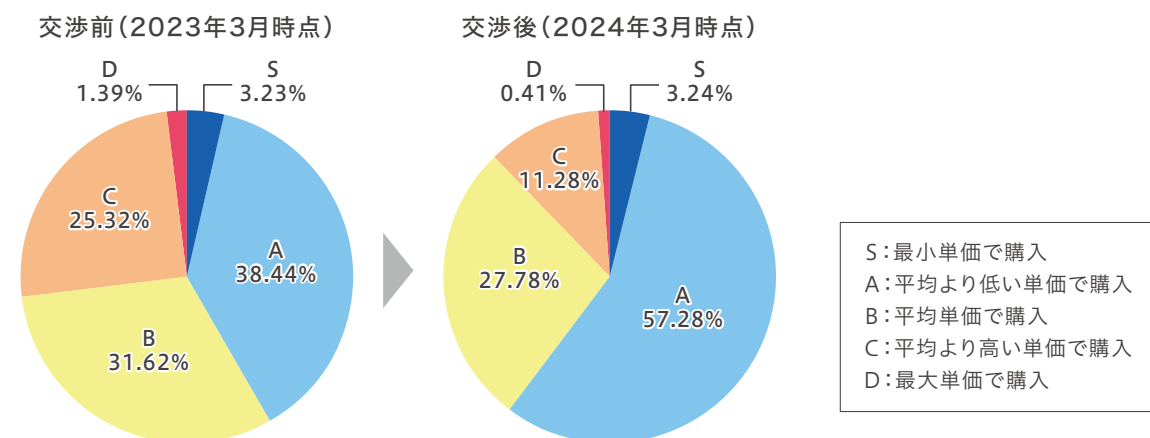
2023年6月には、病院正面玄関に「なんでも相談窓口」を開設しました。看護師、医療ソーシャルワーカーと事務職員が常駐し、相談内容に応じて各相談窓口や当該部署への案内を行っています。同年12月にはクラウドファンディングの達成を受けて進めていた中庭再整備が完了し、リニューアルイベントを実施しました。加えて、2024年度には院内Wi-Fiの整備を行うなど、患者サービス向上のための取組にも力を入れています。

さらに、2025年度には浜松医療センターとの地域医療連携推進法人を設置する予定です。本法人の設立により、病床機能分化の推進や、DXを活用した業務及びシステムやデータの共通化、標準化により良質な医療を提供します。さらに、静岡県西部地域において、感染症や災害等の危機に対応できる体制を構築します。そのほか、職種別共同研修や人事交流によるキャリアパスの構築等により、地域に貢献する人材の育成や、医療機器や医薬品の共同購入、共同価格交渉によりコスト削減を図り、真に必要な医療へ重点的な投資を行うことを計画しています。

◆ 経費削減の取組

2022年1月から導入した医療材料ベンチマークシステムを活用し、製造業者及び販売業者との面談による医療材料等の購入にかかる価格交渉を2023年度に引き続き2024年度も継続して行っています。医療材料ベンチマークシステムとは、同システムを利用している全国の医療機関の医療材料等の品目ごとの購入価格・購入数量を参照し、本院の価格と比較・分析することができるシステム（全国880施設が利用）のことです。2023年度の価格交渉の結果、医療材料等の購入費を年間約7千万円削減しました。このほか2023年度から医薬品も価格交渉を開始し、経費削減に取り組んでいます。

医療材料の取引金額構成比率



地域の皆様と共に 未来を創る浜松医大

教育・研究・診療及び社会貢献活動を推進していくために募金活動を行うこととし、

2016年7月「浜松医科大学基金」を設立しました。浜松医科大学基金によって、

医学及び看護学の教育研究に打ち込める環境や様々な交流を行う機会を提供することにより、

将来性豊かな多くの若者を優れた医療人や研究者に育てたいと思っています。

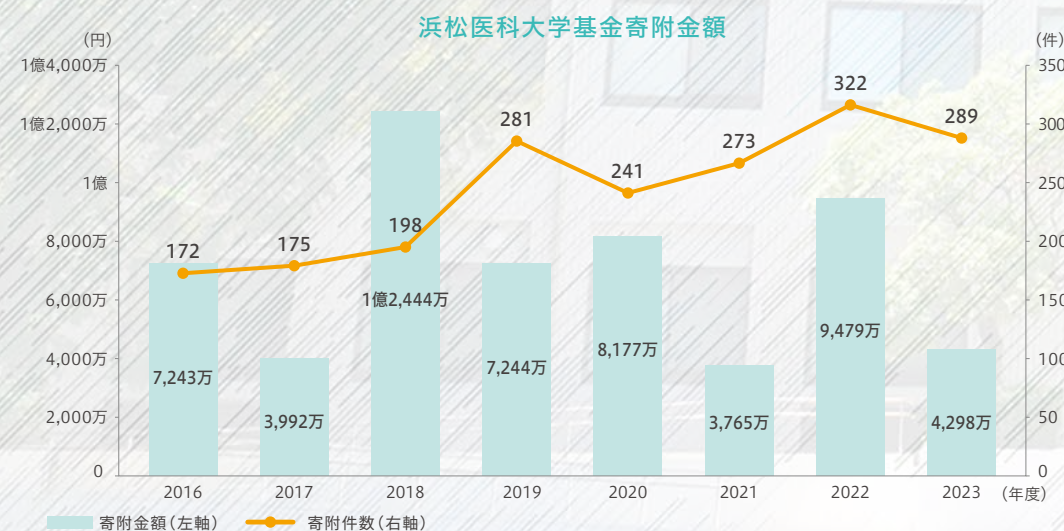
浜松医科大学はこれからも地域社会に貢献しつつ、本学の特色を世界に発信していきます。

浜松医科大学基金寄附額（2024年3月末現在）

基金設立より、**個人1,712件、法人等239件**の皆様から

総額5億6,642万円のご寄附をいただきました。

浜松医科大学基金の趣旨をご理解いただき、ご協力とご支援を賜りまして誠にありがとうございます。お寄せいただきました寄附金につきましては、ご意向に沿い、教育・研究・診療・社会貢献等に関する事業を一層充実させるために、有効に活用させていただいています。



web

浜松医科大学基金については、ホームページをご覧ください。
<https://www.hama-med.ac.jp/kikin/index.html>



2023年度 浜松医科大学基金を 活用した支援の実績

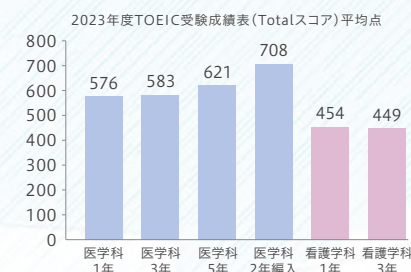
2,851万円

◆教育研究活動への支援 ～TOEIC受験について支援～

【受験者】

医学科…359名 看護学科…125名

※受験は奇数学年及び医学科2年編入



在学中は、TOEIC受験をはじめ、英語教育を継続しています。国際性の観点だけでなく、異文化や人種等の多様性の理解に必須である英語の修学にも焦点を当てたカリキュラムを実施しています。

◆キャンパス環境の整備充実への支援 ～学生食堂の改修～



新型コロナウイルス感染症の影響で営業を中止していた学生食堂を改修し、2023年11月に再開しました。学生からの要望もあり、メニューをリニューアルし、キャッシュレス決済も導入して利用しやすくなりました。

～学生用PCルームの整備～



附属病院多目的ホール内に学生用PCルームを整備するために、サーバー及びPCの購入を支援しました。

◆講義実習棟の整備

老朽化した建物の再生とIT時代の様々な最先端技術を取り入れた学修環境の提供を目標に、2021年度より整備してきました。特別講義室AVシステムの購入を支援し、充実した学修環境を提供することができています。



◆国際交流及びグローバル人材育成への支援 ～留学生との意見交換会について支援～

2024年3月「国際交流のつどい」の開催を支援しました。(2024年5月現在、7か国・38名の外国人留学生在籍)



◆附属病院への支援

小児医療の充実のため、未熟児網膜症の診察機器(広画角デジタル眼撮影装置)の更新を支援しました。未熟児網膜症とは、超低出生体重児に高頻度に見られ、まだ発達途上の眼球内で網膜血管が異常増殖する疾患です。最新の医療機器を導入することができ、医療環境の充実を図ることができました。



皆様へ

「統合報告書2024」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。

本学では2021年度から、これまで発行しておりました本学の取組と財務に関する年次報告書である「アニュアルレポート」を大きく見直し、本学の将来ビジョンに向けた取組と現在の進捗状況を、関係されるすべての皆様へ分かりやすく説明することを大きな目的として統合報告書を作成しています。

作成に当たっては、部署横断的組織であるIR(Institutional Research)室が中心となり、昨年度いただいた皆様からのご意見・ご感想を参考に、将来ビジョンの5つの区分である教育、研究、医療、社会連携・地域連携、業務運営のこれまでの取組から掲載内容を選定し、あわせて、財務諸表等の財務情報を分かりやすい形に整理して構成しています。

この報告書を通して、皆様に本学のこれまでの取組と現在の状況、さらに将来への目標をお伝え出来たら幸いです。また本学に関係される多様な立場の皆様から、忌憚のないご意見をお待ちしています。

皆様との対話を通じて、本学の未来、新しい価値を創造してまいりたいと考えています。

2024年に本学は開学50周年を迎えました。学長をトップとしたガバナンス体制の下に、将来ビジョン達成に向けて、今後も教育・研究・医療の新たな取組、さらなる業務効率化等の経営改革を職員一丸となって進めてまいります。

引き続き、ご支援ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

理事(企画・評価担当)・副学長
IR室長 須田隆文

アンケートへのご協力をお願い

統合報告書2024をお読みいただき、ありがとうございました。

本学は本報告書を通して、本学を支えてくださる皆様に大学の将来ビジョンや具体的な取組についてご理解を深めていただき、対話をしていくことでさらなる改善を目指しております。

その一つとして、統合報告書2024をホームページに掲載して、Webアンケートを実施しておりますので、お気付きのことがありましたら、ご意見をいただけますと幸いです。

web

統合報告書ホームページ・Webアンケート

<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/zaimu.html>



【報告対象期間】

2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)を対象としています。ただし、必要に応じて当該期間の前後についても記載しています。また、財務情報の多くは、2023年度までの情報となっています。

浜松医科大学紹介の情報

◆ 情報公開と広報誌/刊行物のご案内

統合報告書2024は、本学の取組と財務情報から、本学の活動を関係されるすべての皆様に分かりやすい内容となるように集約編集したものです。より詳細な内容につきましては、本学ホームページに掲載しています。

浜松医科大学ホームページ

<https://www.hama-med.ac.jp/index.html>



中期目標・中期計画等

www.hama-med.ac.jp/about-us/mid-term-goal/index.html



国立大学法人評価に関する情報

www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/eval-info/daigakuhyouka.html



財務諸表等

www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/financialinfo/financial.html



大学概要

www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/gaiyou.html



大学概要

環境報告書

www.hama-med.ac.jp/about-us/mechanism-fig/safety-hygiene/er.html



環境報告書

大学広報誌『NEWSLETTER』

www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/newsletter/index.html



大学広報誌
『NEWSLETTER』

附属病院広報誌『はんだ山の風』

www.hama-med.ac.jp/hos/about-us/journal/handayamanokaze/index.html



附属病院広報誌
『はんだ山の風』